

施策目標に関する市民意識調査 報告書

(平成27年度市民アンケート取りまとめ)

平成27年8月

仙台市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査仕様	1
4. 調査期間	1
5. 回収率	1
6. 報告書の見方	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 住居形態	3
(4) 職業	3
(5) 世帯構成	4
(6) 居住区	4
(7) 仙台市の居住年数	4
(8) 「り災証明」の状況	4
(9) 母集団（仙台市の18歳以上の人口）との比較	5
II. 調査結果	7
1. 復旧・復興施策	7
(1) 項目別結果一覧	8
(2) 力をいれるべき施策結果一覧	10
(3) 設問別・属性別結果	12
2. 復旧・復興以外の施策	17
(1) 項目別結果一覧	18
(2) 力をいれるべき施策結果一覧	22
(3) 設問別・属性別結果	24
3. 仙台市における住みやすさなど	47
(1) 仙台市の住みやすさ	47
(2) 仙台市への愛着	49
(3) 今後の仙台市への居留意向	50
4. 自由意見	52
III. 資料	57
調査票	57

I . 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、本市の東日本大震災からの復旧・復興や、施策の推進状況に関する市民の評価やニーズの変化を継続的に把握し、年齢層別の視点も含め総合的な分析を行い、その結果を施策の進捗管理に活かすことにより、本市の重点施策の推進を図ることを目的とする。

2. 調査項目

(1) 東日本大震災からの復旧・復興施策

復旧・復興施策の進捗状況の認識、力を入れるべき施策

(2) 復旧・復興以外の施策

施策の評価、力を入れるべき施策

3. 調査仕様

- (1) 調査地域 仙台市全域
- (2) 調査対象 仙台市に居住する満 18 歳以上の男女 6,000 人
- (3) 抽出方法 平成 27 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配付・回収

4. 調査期間

調査票発送	回収締切	集計対象
平成 27 年 4 月 17 日	平成 27 年 5 月 1 日	平成 27 年 5 月 8 日

5. 回収率

	対象者数	有効回収数	有効回収率
平成 27 年度	6,000 人	2,291 票	38.2%

6. 報告書の見方

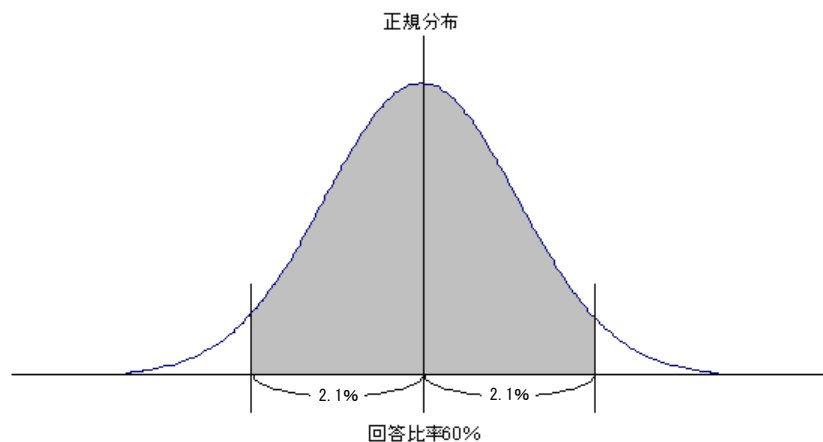
- ・調査数（N=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答等の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。そのため、構成比の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多岐選択式の質問においては、すべての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・標本誤差^{※1}は下記の通りである。
等間隔抽出法^{※2}の標本誤差は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差} = 2 \sqrt{\{(N-n)/(N-1)\} \times \{p \times (1-p)/n\}}$$

※N=母集団 n=比率算出の基数（サンプル数） P=回答比率

n	p	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,291		±1.3%	±1.7%	±1.9%	±2.0%	±2.1%
1,000		±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.2%
500		±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
200		±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
100		±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
50		±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

表の見方：ある設問の回答者数が2,291で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも2.0%以内（58.0～62.0%）とみることができる。
また、標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）及び回答比率（P）によって異なる。



※1 標本誤差：標本調査の結果として得られた推計値の正確さを表す数値。この場合の標本調査は調査の客体を無作為に選んだものでなければならない。

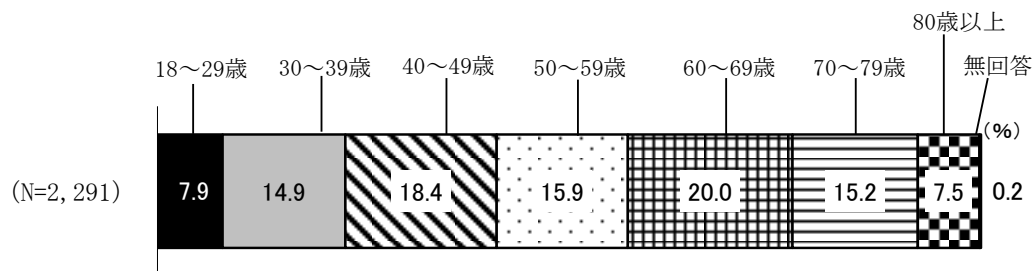
※2 等間隔抽出法：母集団の全てに通し番号をつけ、ランダムに出発番号を決め、一定の間隔毎にサンプルを抽出して行く方法。

7. 回答者の属性

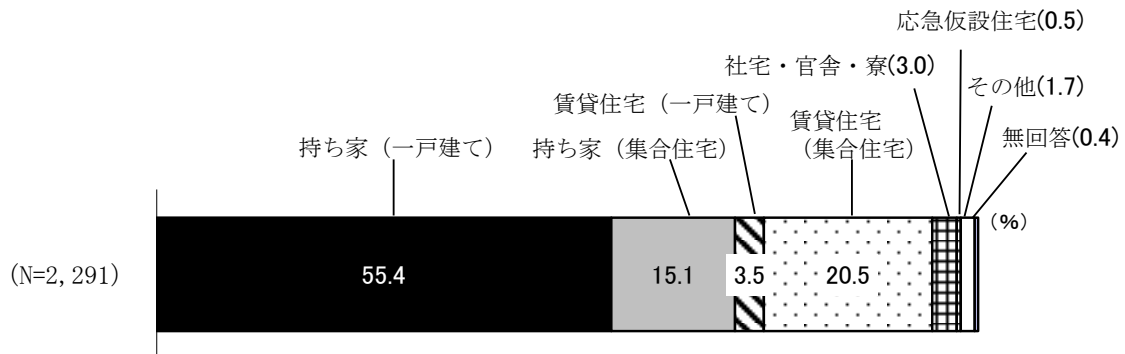
(1) 性別



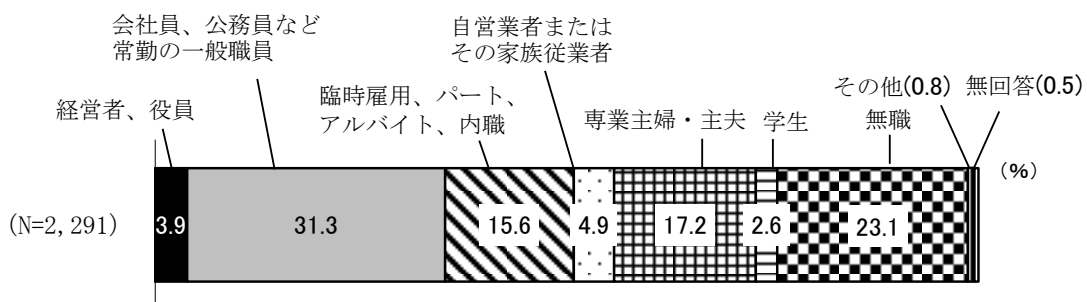
(2) 年齢



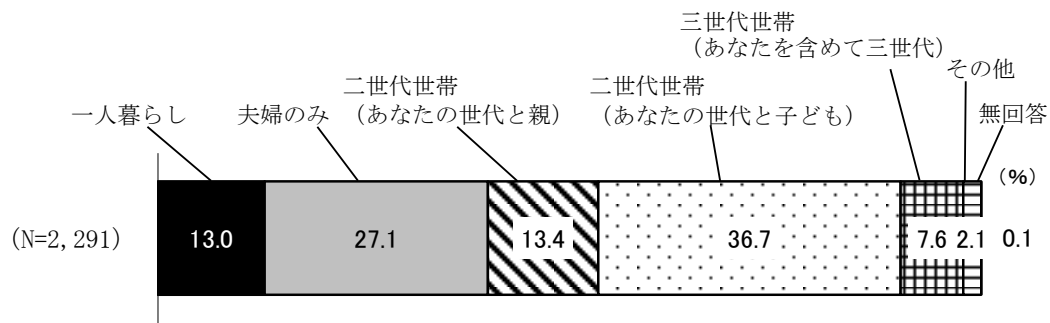
(3) 住居形態



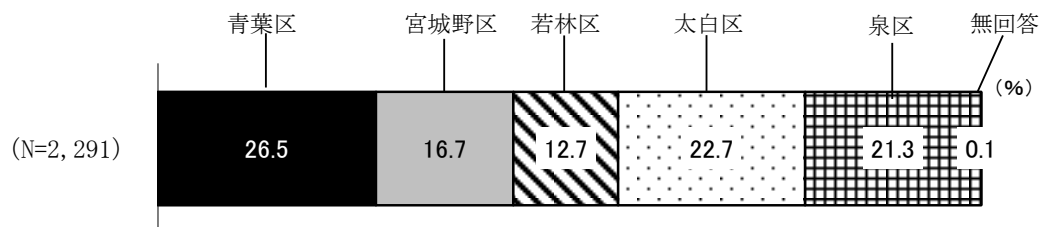
(4) 職業



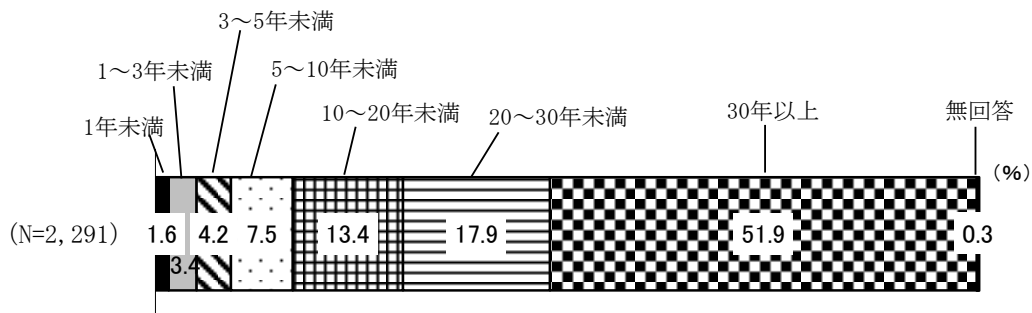
(5) 世帯構成



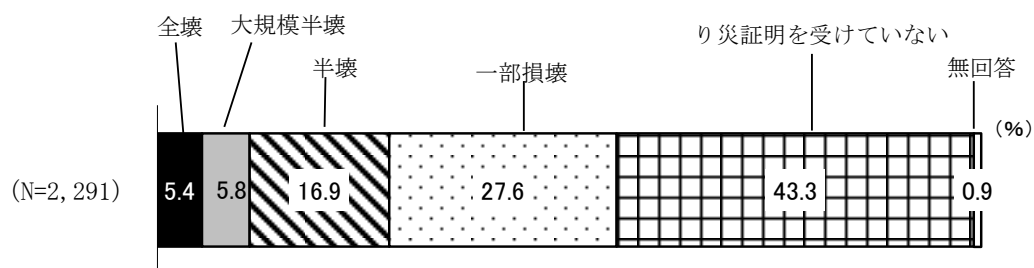
(6) 居住区



(7) 仙台市の居住年数



(8) 「り災証明」の状況



(9) 母集団（仙台市の18歳以上の人口）との比較

	母集団数 (人)	割合 (%)	有効回収数 (票)	割合 (%)
年齢層別				
18～29 歳	142,729	16.3	181	7.9
30～39 歳	152,225	17.4	342	14.2
40～49 歳	160,605	18.3	421	18.4
50～59 歳	126,946	14.5	365	15.9
60～69 歳	134,637	15.4	458	20.0
70～79 歳	94,491	10.8	349	15.2
80 歳以上	63,541	7.3	171	7.5
無 回 答			4	0.2
計	874,874	100.0	2,291	100.0
性別				
男 性	419,223	47.9	1,000	43.6
女 性	455,651	52.1	1,264	55.2
無 回 答			27	1.2
計	874,874	100.0	2,291	100.0

※母集団数は、平成 27 年 4 月 1 日現在 住民基本台帳による。

II. 調查結果

II. 調査結果

1. 復旧・復興施策

(1) 項目別結果一覧 (P8~9)

「東日本大震災からの復旧・復興施策」の10項目について、進捗状況の4段階評価（1 進んでいる、2 どちらかといえば進んでいる、3 どちらかといえば進んでいない、進んでいない）の結果をまとめている。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧 (P10~11)

「東日本大震災からの復旧・復興施策」の10項目について、「今後、特に力をいれていくべきと思う施策」の回答結果をまとめている。

(3) 設問別・属性別結果 (P12~16)

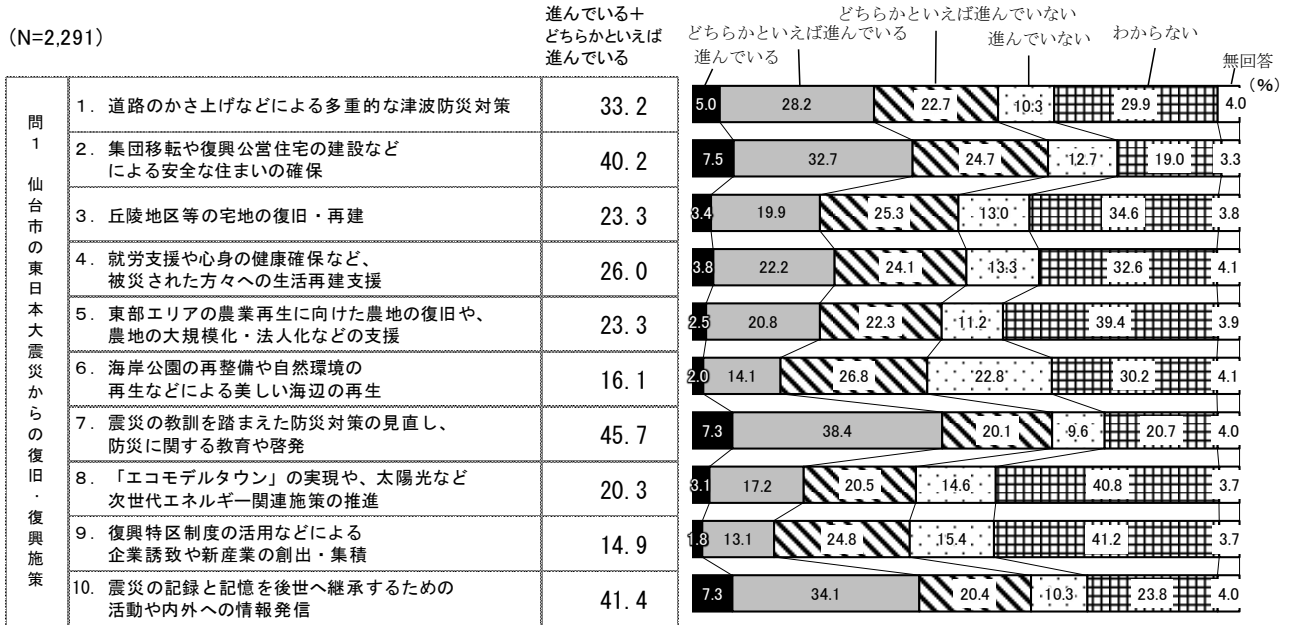
「東日本大震災からの復旧・復興施策」の10項目について、調査結果を経年別（平成26年度調査との比較）、年代別に分析している。

平成26年度との比較

- ・項目別評価の“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合については、10項目中9項目で昨年度を上回っている。その中で、昨年度比で回答割合の上昇ポイントが最も高い項目は、「2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」で9.6ポイント、次に「1. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策」で6.2ポイントとなっている。
- ・項目別評価の“どちらかといえば進んでいない+進んでいない”の割合については、10項目全てにおいて、昨年度を下回っている。その一方で、“わからない+無回答”の割合については、10項目全てにおいて、昨年度を上回っている。
- ・“今後、特に力をいれるべき施策”については、昨年度の1位と2位が入れ替わり「4. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援」、「2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」、「7. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」の順となっている。また、回答割合としては概ね昨年度を下回っている。

(1) 項目別結果一覧

問1 あなたは、仙台市が進めている震災からの復旧・復興に向けた取り組みについて、どのくらい進んでいると思いますか。次の1~10の施策それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。



項目別評価の“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”（上位5項目の経年比較）

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
1位	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 45.7%	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 41.7%	震災がれきの処理（※1） 66.7%
2位	震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信（※2） 41.4%	震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信（※2） 40.0%	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 39.8%
3位	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 40.2%	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 30.6%	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 26.1%
4位	道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策 33.2%	道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策 27.0%	東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援 19.7%
5位	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 26.0%	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 24.1%	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 19.2%

※1：平成25年度までの項目

※2：平成26年度新設の項目

「東日本大震災からの復旧・復興施策」に対する回答については、“進んでいる＋どちらかといえば進んでいる”の割合が最も高いのは、「7. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」（45.7%）となっている。この項目について平成25・26年度と経年比較してみると、2年連続で評価が上昇している。これは、本市地域防災計画に基づく総合防災訓練や本市独自の防災副読本を活用した学校教育等を実施するなど、日頃から防災に対する取り組みを行っていることがこうした結果につながっているものと考えられる。

次いで、平成26年度からの追加調査項目である「10. 震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信」（41.4%）が続いている。市民協働事業である「伝える学校」や市中心部の震災に関わる市民の体験や知恵を集めて未来に伝える取り組みである「街からの伝言板」を実施するとともに、これまでの取り組みを第3回国連防災世界会議のパブリックフォーラムにおいて発信するなど、積極的に情報発信してきたことが、こうした結果につながっているものと考えられる。

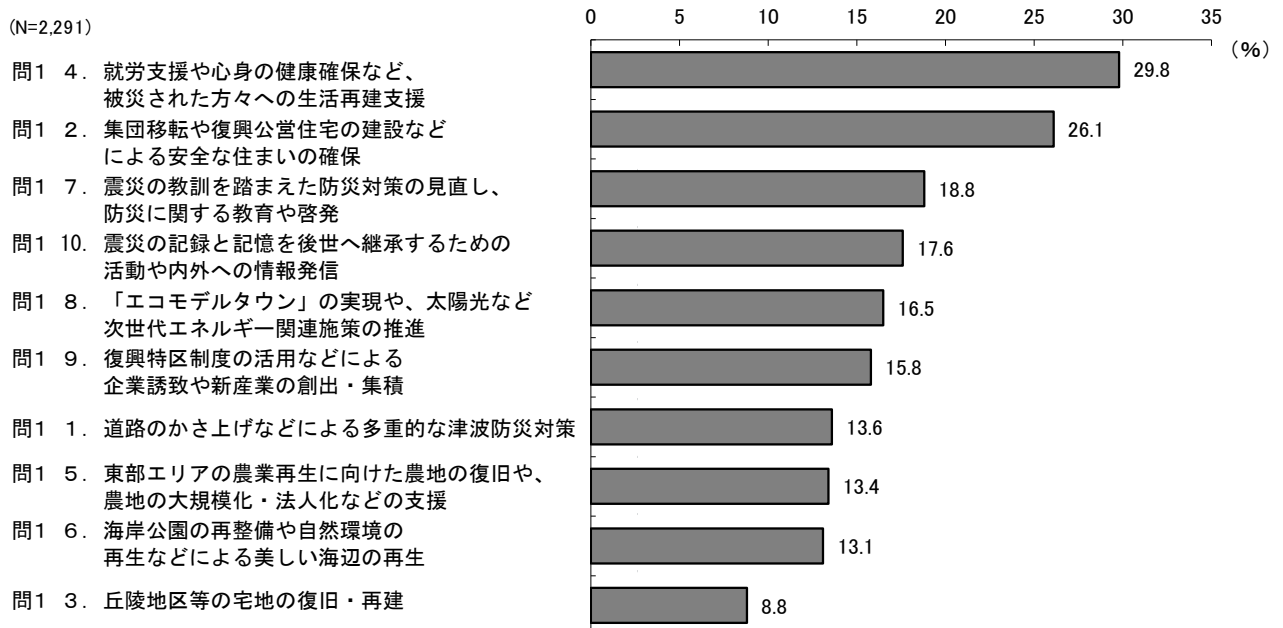
甚大な津波被害を受けた東部沿岸地域や、大規模な地滑りが発生した丘陵地域におけるハード面の取り組みについては、「2. 集団移転や復興公営住宅の建設など安全な住まいの確保」（40.2%）、「1. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策」（33.2%）、「5. 東部エリアの農業の再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化」（23.3%）、「3. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建」（23.3%）、「6. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生」（16.1%）となっており、いずれも平成26年度よりも高い評価になっている。これは、復興公営住宅の建設等が市民の方々の目に見える形で進んできていることや実際に入居している方々が増えてきていることなど、安全な住まいの確保が着実に進んでいることが、こうした結果につながっているものと考えられる。また、その他のハード面についても、資材や労務者の不足等による遅延が一部生じている事業があるものの、目標の達成に向けて概ね進んでいることなどから、平成26年度よりも高評価になっているものと考えられる。

“進んでいる＋どちらかといえば進んでいる”の割合を平成26年度と比較すると、「2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」が9.6ポイント増加したのを筆頭に、10項目中9項目で平成26年度の割合を上回った。これは、震災後4年が過ぎ、復旧・復興へ向けたさまざまな取り組みの成果が見えてきていることやこれらの進捗情報発信に継続的に努めてきたことなどにより、復旧・復興の着実な推進を市民の方々が昨年度以上に実感できていることが、こうした結果につながっているものと考えられる。

“進んでいる＋どちらかといえば進んでいる”の割合の上位5項目について、平成26年度と比較すると、5項目全てが平成27年度においても引き続き入り、順位も同様となっている。これら上位5項目における評価割合はすべて平成26年度より上昇しており、復旧・復興の取り組みがソフト面・ハード面ともに進んできていると市民の方々が実感していることを示していると考えられる。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧

問1 今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。(○は複数可)



今後、特に力をいれるべき施策（上位5項目の経年比較）

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
1 位	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 29.8%	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 32.1%	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 37.4%
2 位	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 26.1%	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 30.8%	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 33.1%
3 位	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 18.8%	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 21.6%	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 22.2%
4 位	震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信（※） 17.6%	「エコモデルタウン」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進（※） 17.8%	道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策 21.7%
5 位	「エコモデルタウン」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進（※） 16.5%	震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信（※） 17.3%	復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積 19.5%

※：平成 26 年度新設の項目

「今後、特に力を入れるべき施策」については、全体としては概ね平成 26 年度より割合が下がっており、震災からの復旧・復興に向けた取り組みが市民の方々にも実感できる段階になってきているのではないかと考えられる。

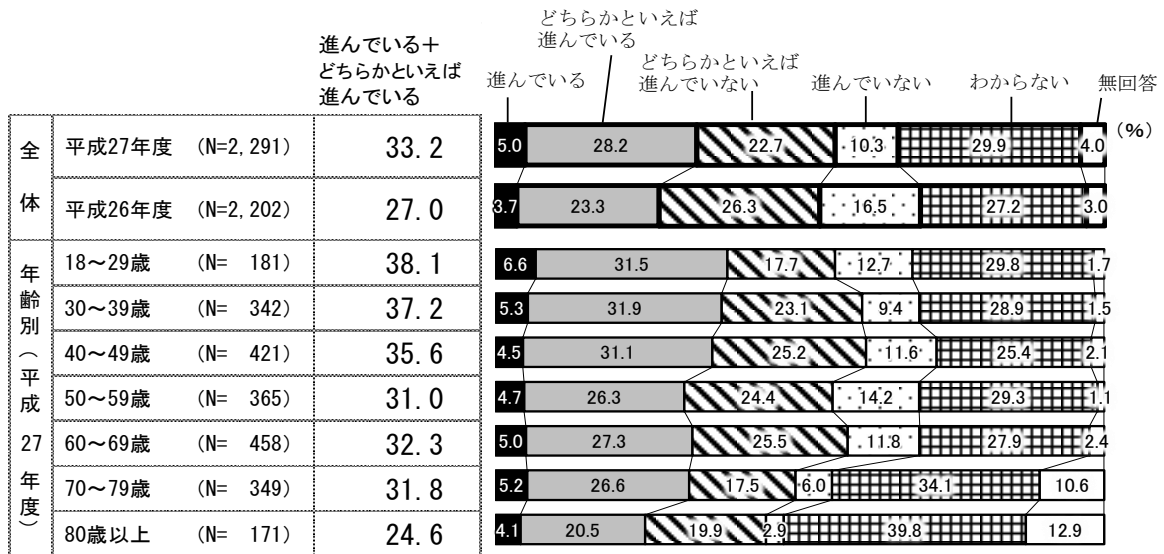
項目を個別に見ていくと、「4. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援」(29.8%) が最も多く、次に「2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」(26.1%) が続いており、平成 26 年度と順位が入れ替わっている。これは、復興公営住宅の建設が一定程度進んでいることや、それに伴い集団移転も促進されていることを市民の方々が実感してきていることから、「2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」が平成 26 年度の 32.1% から 26.1% に減少したものと考えられる。その一方で、「4. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援」が 1 位になったことから、ハード面の着実な整備推進とともに、被災者の方々が自立して生活していくために必要な就労支援や仕事・生活拠点などの環境の変化等に伴う心身のサポートがより一層求められていることが考えられる。

3 番目は、「7. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」(18.8%) となっており、以下、「10. 震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信」(17.6%)、「8. 「エコモデルタウン」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進」(16.5%)、の順となっている。「7. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」については、平成 26 年度の 21.6% から 2.8 ポイント下がっているものの順位は変わらず、今後も防災対策や防災に関する教育や啓発が重要であると市民の方々も認識していることが窺われる。

これからハード面の整備等がさらに進んでいくと、心身の健康サポートや防災関係の教育・啓発といったソフト面に向けた施策の必要性がより一層高まっていくものと考えられる。

(3) 設問別・属性別結果

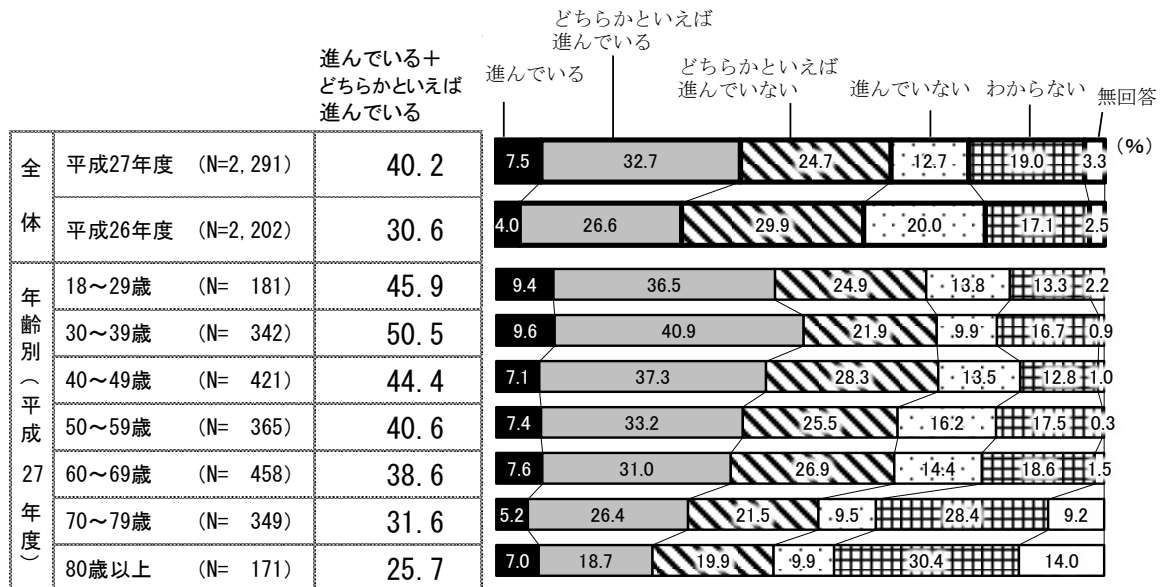
問 1 1. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が33.2%となっており、平成26年度より6.2ポイント高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が33.9%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、若年層で高くなっている。

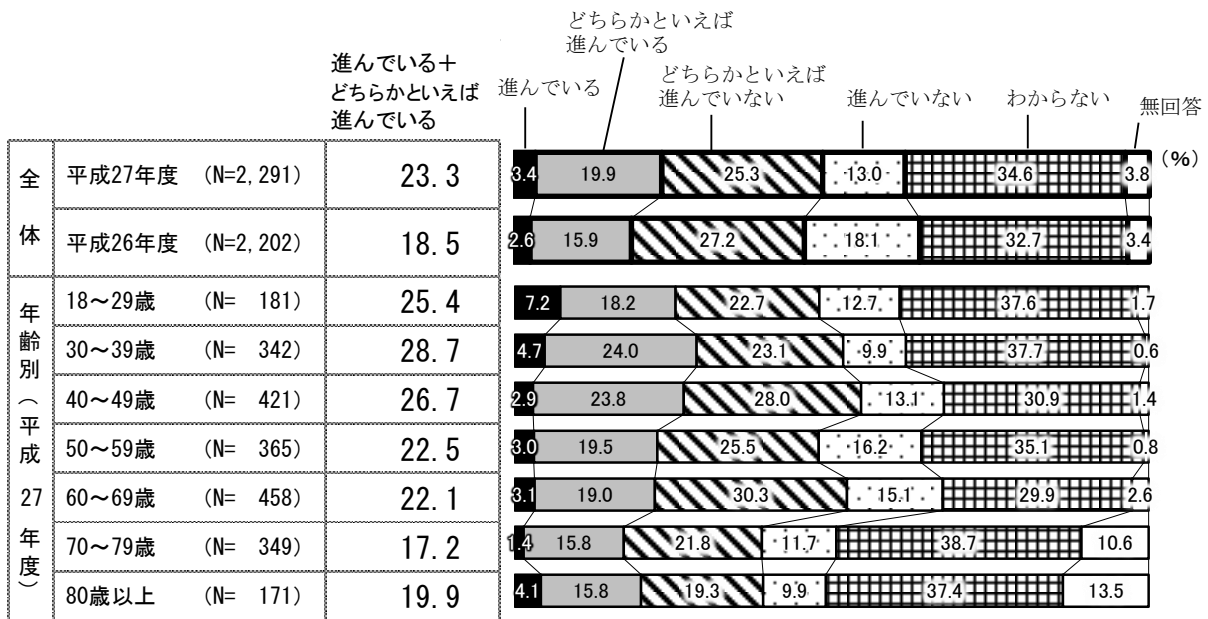
問 1 2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が40.2%と高めで、平成26年度より9.6ポイント高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られる。

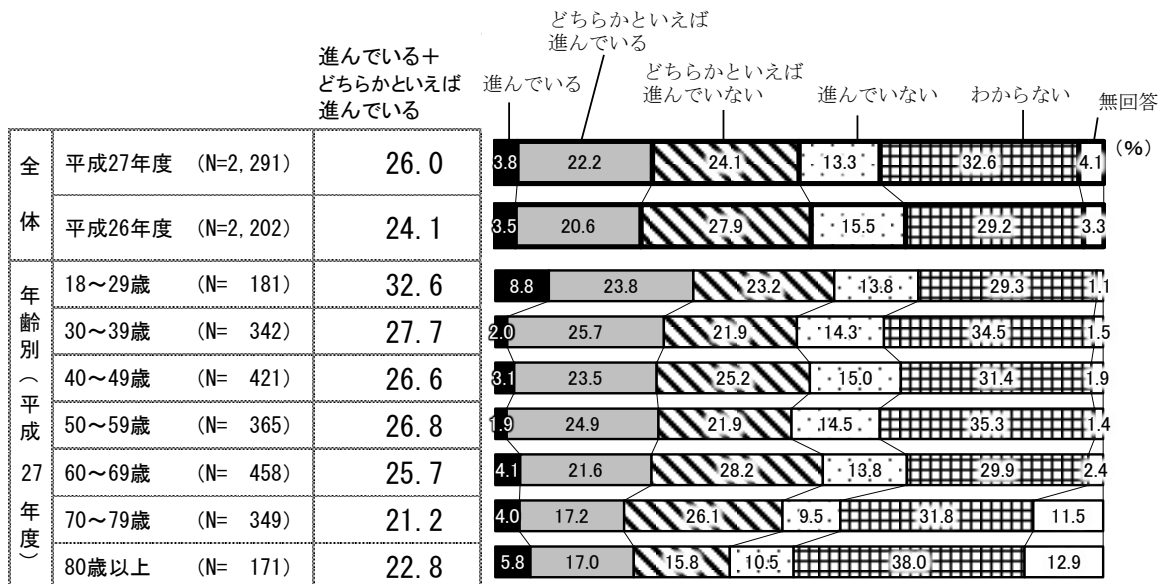
問1 3. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が平成26年度よりは増えたものの、23.3%にとどまっている。一方、“わからない+無回答”が38.4%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が概ね若年層で高く、一方、“わからない+無回答”の割合は、若年層及び高齢層で高く、特に80歳以上で5割を超えている。

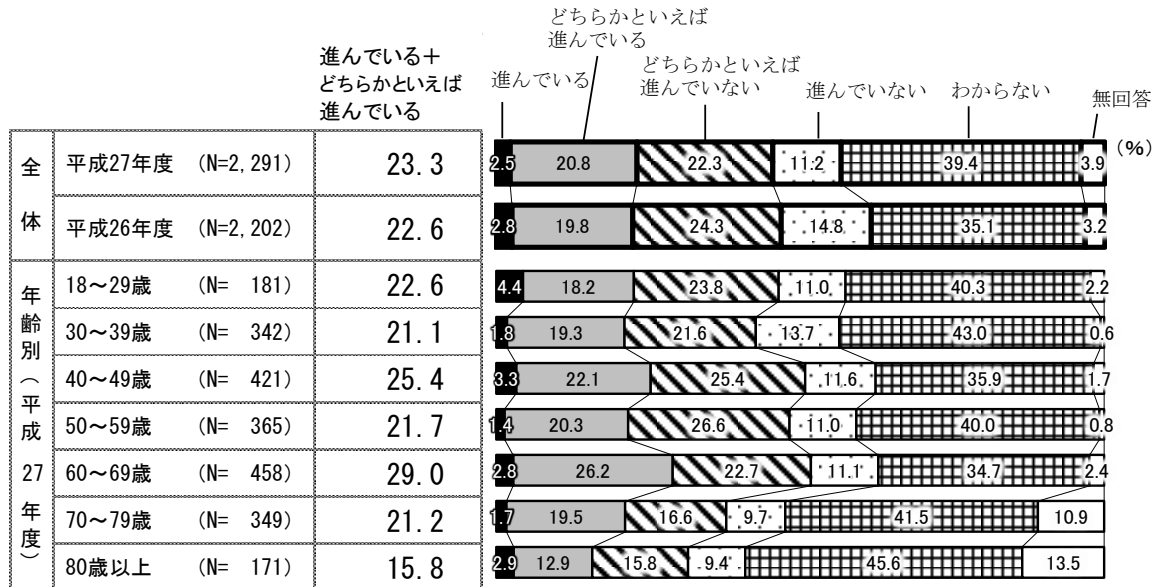
問1 4. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が26.0%にとどまっているものの、平成26年度より1.9ポイント高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が36.7%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で5割を超えている。

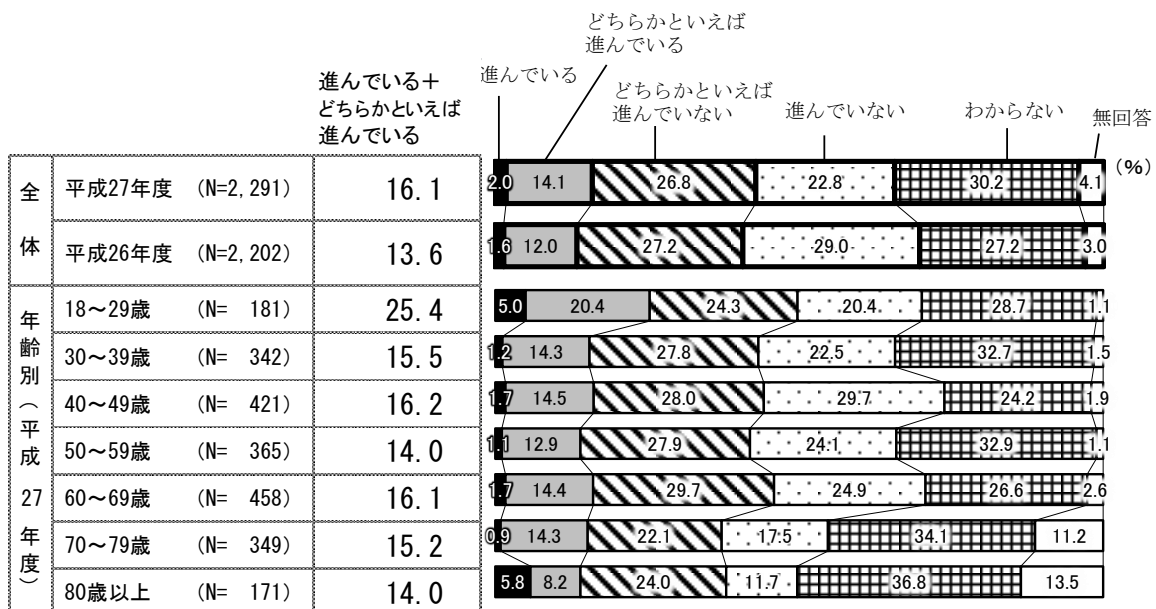
問 1 5. 東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が23.3%にとどまっている。一方、“わからない+無回答”の割合が43.3%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、60歳代で他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が70歳以上で5割を超えている。

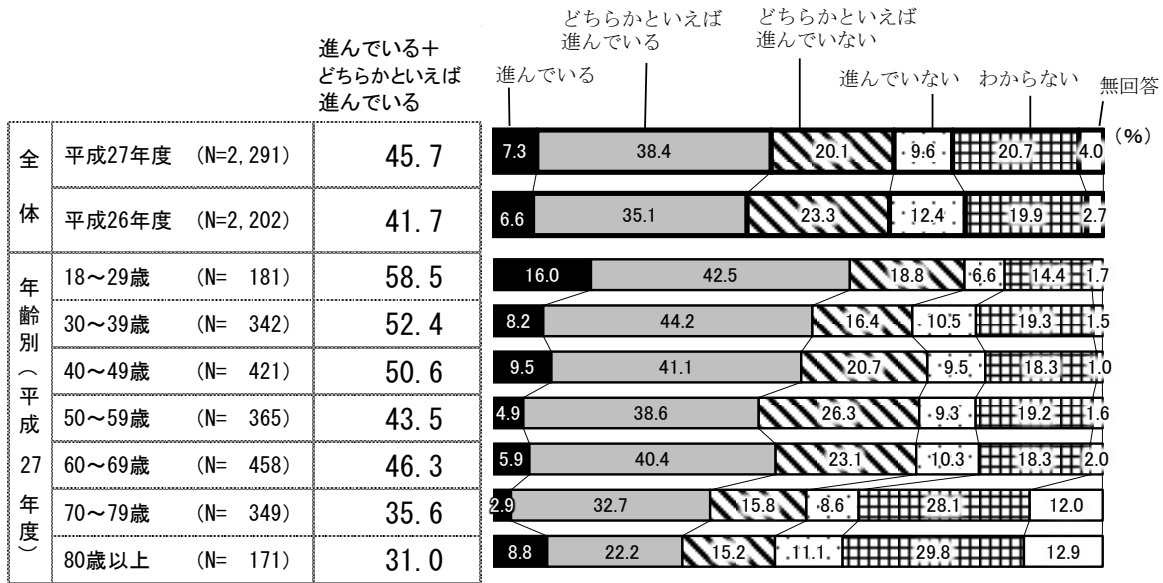
問 1 6. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が16.1%と低くなっているものの、平成26年度より2.5ポイント高くなっている。一方、“わからない+無回答”が34.3%と高くなっている。

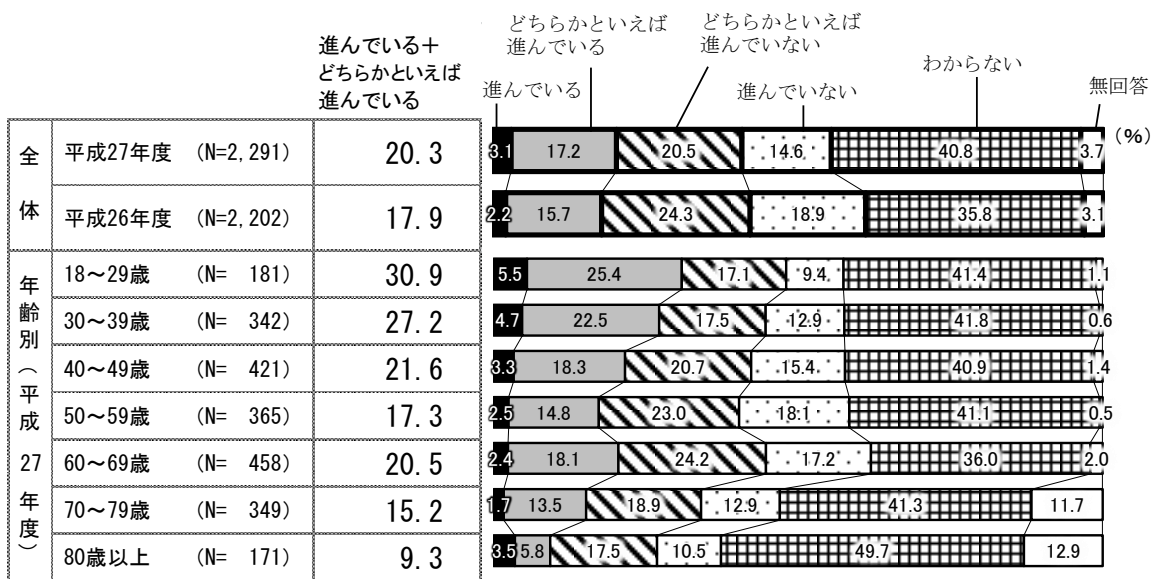
年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、18~29歳で高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で5割を超えている。

問 1 7. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発



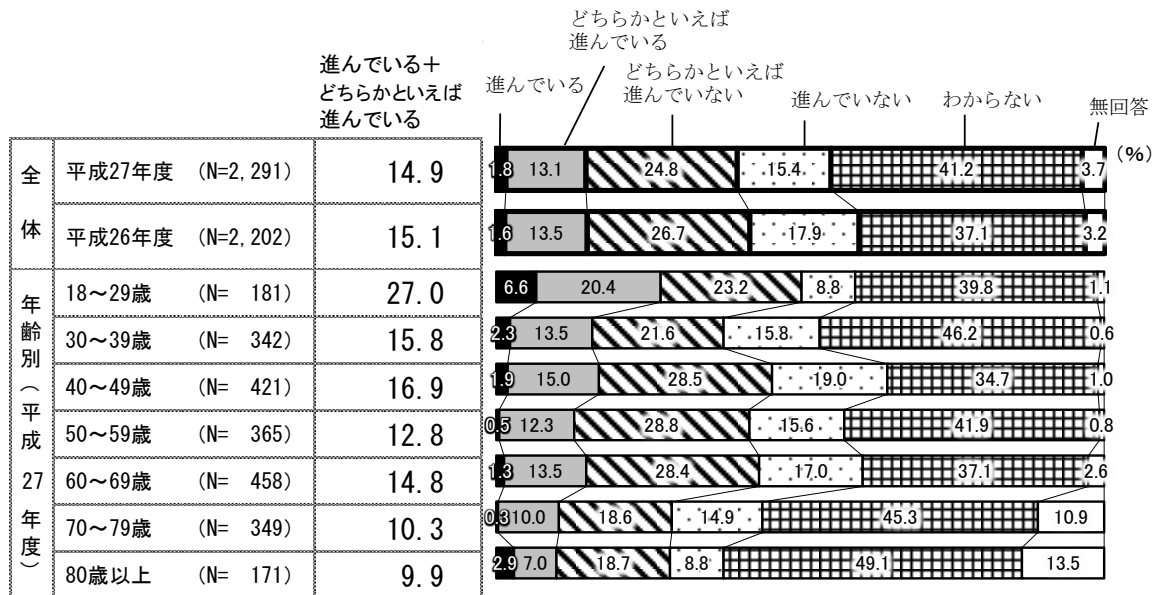
全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が45.7%と高くなっている。年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向があり、特に50歳未満においては5割を超えている。

問 1 8. 「エコモデルタウン」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が20.3%にとどまっているものの、平成26年度より2.4ポイント高くなっている。一方、“わからない+無回答”が44.5%と高くなっている。年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が若年層で高い傾向となっている。一方、“わからない+無回答”の割合が70歳以上で5割を超えている。

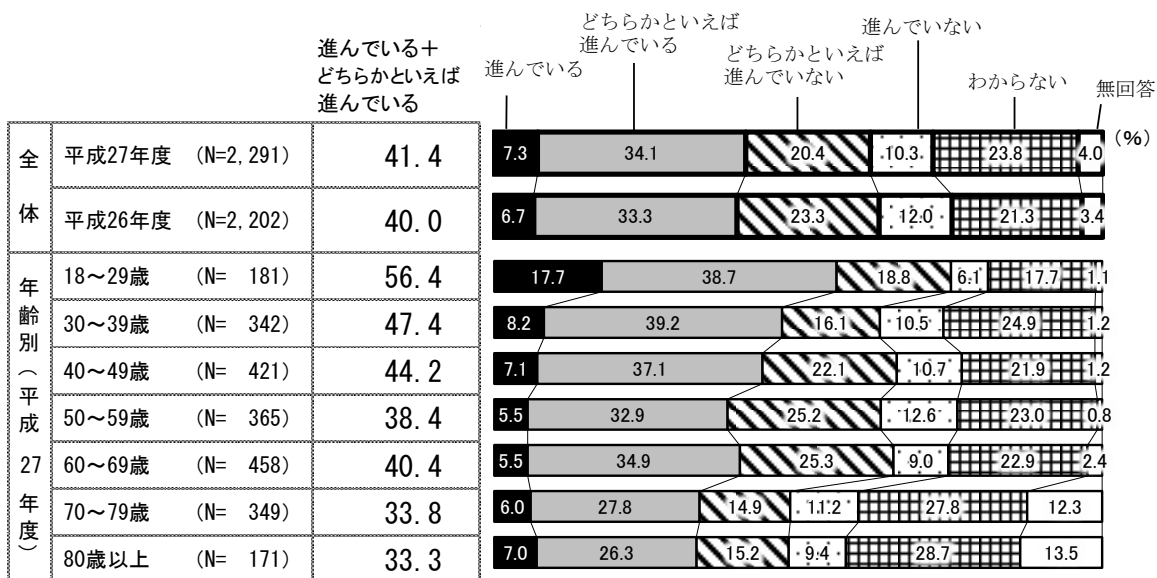
問 1 9. 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が14.9%と低くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が44.9%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が18~29歳で高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が70歳以上で5割を超えている。

問 1 10. 震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が41.4%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られる。

2. 復旧・復興以外の施策

(1) 項目別結果一覧 (P18~21)

「東日本大震災からの復旧・復興施策以外の施策（問 2～問 9）」の各項目について、4段階評価（1 評価する、2 どちらかといえば評価する、3 どちらかといえば評価しない、4 評価しない）の結果をまとめている。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧 (P22~23)

「東日本大震災からの復旧・復興施策以外の施策（問 2～問 9）」の各項目について、「今後、特に力をいれていくべきと思う施策」についての回答結果をまとめている。

(3) 設問別・属性別結果 (P24~45)

「東日本大震災からの復旧・復興施策以外の施策（問 2～問 9）」の各項目について、調査結果を経年別（平成 26 年度調査との比較）、年代別に分析している。

平成 26 年度との比較

- 項目別評価の“評価する+どちらかといえば評価する”の順位について、昨年度の上位 10 項目のうち 9 項目が今年度も上位 10 項目の中に入った。特に上位 3 項目については、3 年連続で同じ内容の順位となっている。
- 項目別評価の“評価しない+どちらかといえば評価しない”の順位については、昨年度 7 位の「地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化」が今年度は 3 位に上昇している。また、今年度 1 位の「歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実」と 2 位の「特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり」については、3 年連続で同じ順位となっている。
- “わからない+無回答”については、昨年度順位と同様に 1～3 位は「外国人が暮らしやすい環境づくり」、「発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり」、「地域団体や NPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり」の順となっている。
- “今後、特に力をいれるべき施策”については、概ね同じ項目が上位となっている。

(1) 項目別結果一覧

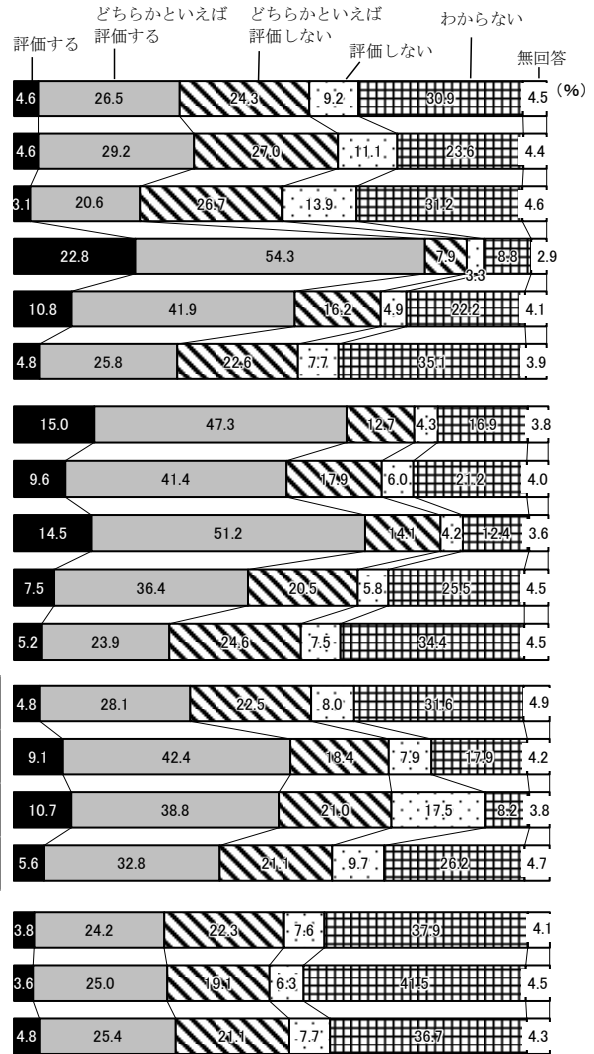
問2～問9 仙台市の各取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

(N=2,291)		評価する+	どちらかといえば	どちらかといえば	わからない	評価しない	評価しない	無回答
		評価する	評価する	評価しない	評価しない	評価する	評価する	(%)
問2 健康で暮らせる安全にまちづくり	1. 医療サービスや救急医療体制の充実	53.8	9.3	44.5	19.1	7.4	15.8	3.9
	2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進	56.3	9.5	46.8	17.6	5.8	16.5	3.8
	3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保	34.4	4.5	29.9	25.5	7.0	28.5	4.7
	4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実	30.7	4.1	26.6	32.7	19.2	18.4	4.1
	5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全	35.9	4.4	31.5	25.3	10.4	23.8	4.7
	6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化	31.7	4.4	27.3	29.8	11.0	23.2	4.4
	7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上	49.1	8.7	40.4	19.8	7.2	19.9	4.1
問3 子育て支援環境づくり	1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり	27.9	4.5	23.4	24.3	14.1	29.9	3.9
	2. 児童館の整備やさまざまな体験活動の機会の確保など、子どもたちが明るく元気に育つ環境づくり	40.6	6.2	34.4	18.8	7.6	28.7	4.3
	3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり	33.6	5.3	28.3	18.3	6.5	37.4	4.1
	4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実	27.1	3.8	23.3	20.7	10.3	37.8	4.1
	5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり	32.7	4.2	28.5	22.3	8.3	31.8	4.8
	6. 大学などの人材や知的資源が集積した「学都」を生かしたまちづくり	27.7	4.5	23.2	21.8	9.8	36.1	4.5
問4 自立し誰もが暮らしやすい環境づくり	1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり	34.5	4.8	29.7	26.1	10.5	24.5	4.4
	2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり	34.4	4.2	30.2	25.4	10.6	24.7	4.8
	3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり	25.7	3.5	22.2	28.7	17.0	24.4	4.1
	4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり	25.4	3.8	21.6	25.2	11.2	33.3	4.8
	5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり	25.7	3.7	22.0	22.7	10.4	36.3	5.0
	6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり	23.1	3.4	19.7	21.5	9.1	41.2	5.1
	7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進	20.8	2.8	18.0	25.5	15.0	38.8	4.9
	8. 外国人が暮らしやすい環境づくり	20.9	2.9	18.3	17.3	7.7	50.1	4.0
問5 に親文化芸術やスポーツ	1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、音楽・アート等に市民が取り組める環境づくり	62.4	14.4	48.0	11.5	4.3	17.9	3.9
	2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり	66.1	20.4	45.7	8.9	2.6	18.5	3.8
	3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり	48.5	8.4	40.1	19.6	5.3	22.5	4.1
	4. スポーツに市民が取り組める環境づくり	46.8	9.0	37.8	22.2	6.5	20.3	4.2
	5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり	66.1	22.2	43.9	11.3	4.5	14.2	3.9

(N=2,291)

評価する+
どちらかといえば
評価する

問6 東北を牽引する観光交流促進	1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出	31.1
	2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活気づくり	33.8
	3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化	23.7
	4. 仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり	77.1
	5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大	52.7
	6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進	30.6
問7 杜の都を育むまちづくり	1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進	62.3
	2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全	51.0
	3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり	65.7
	4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり	43.9
	5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり	29.1
問8 まちづくりの中心の交通体系づくり	1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進	32.9
	2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり	51.5
	3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり	49.5
	4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備	38.4
問9 市民参加の促進	1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進	28.0
	2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり	28.6
	3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり	30.2



項目別評価の“評価する+どちらかといえば評価する”（上位5項目の経年比較）

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
1位	仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり 77.1%	仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり 84.2%	仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり 82.8%
2位	プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり 66.1%	プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり 70.0%	プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり 69.0%
2位 (3位)	「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり 66.1%	「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり 68.6%	「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり 67.9%
4位	ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり 65.7%	ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり 67.8%	文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり 67.7%
5位	文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり 62.4%	市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進 65.6%	ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり 65.8%

「問2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2.生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進」(56.3%)、「1.医療サービスや救急医療体制の充実」(53.8%)が高い評価を得ている。これは本市の医療体制や保健事業・検診体制等が比較的充実していることなどが、こうした結果につながっているものと考えられる。

「7.防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上」(49.1%)については、東日本大震災以降の市の防災力の向上や災害対応力の強化などに係る取り組みについて、市民の方々も実感を得ながら認知してきているものと考えられる。

「問3 子育て支援や教育環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2.児童館の整備やさまざまな体験活動の機会の確保など、子どもたちが明るく元気に育つ環境づくり」(40.6%)の評価が最も高く、「3.「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり」(33.6%)が続いている。

一方で、「1.保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり」(27.9%)については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が38.4%と10.5ポイント上回っている。これは、本市としても継続的に保育環境整備によるサービス拡充を図っているものの、現状の保育に対する需要が急速に増加しており、施策が現状に追いついていない状況を反映しているものと考えられる。

「問4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「1.高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり」(34.5%)、「2.介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり」(34.4%)の順に評価が高いものの、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合もそれぞれ36.6%、36.0%となっており、評価が分かれている。

また、これら以外のすべての項目においても“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が上回っており、特に「3.特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり」は20.0ポイント、「7.男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進」は19.7ポイントと大きく上回っている。これらは、育児や介護サービスが現状ではまだ不十分であり、今後さらなる拡充が求められていることが考えられる。

「問5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「5.プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり」(66.1%)、「2.「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり」(66.1%)を筆頭に、平成26度に引き続き、全体として高い評価となっている。これは本市で実施されている「せんくら」、仙台国際音楽コンクール、仙台国際ハーフマラソンなどの多彩なイベントや大規模な国際イベントの招致、プロスポーツ支援などを継続的に推進してきたことが評価されたものと考えられる。

「問6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「4.仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり」(77.1%)、「5.観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大」(52.7%)が、高い評価を得ている。これは、本市で四季折々に開催される多彩なまつりやイベント、

大型観光キャンペーン、伊達武将隊などによるプロモーション活動が市民の方々に広く認知されてきていること、また、平成 27 年 3 月に開催された第 3 回国連防災世界会議をはじめとした大規模な国際会議の誘致などが、こうした結果につながっているものと考えられる。

その他の経済施策については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が、同程度または上回る結果となっている。

「問 7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり」(65.7%)、「1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進」(62.3%)が、平成 26 度と同様に、特に評価が高くなっている。これは「杜の都」としてのこれまでのまちづくりや、キャラクターを活用した広報や紙類定期回収など、ごみ減量・リサイクルへの継続的な取り組みなどが評価されたものと考えられる。

「問 8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり」(51.5%)の評価が平成 26 年度と同様に最も高い。「3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり」(49.5%)については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合も 38.5%あり、平成 26 年度同様に評価が分かれている。

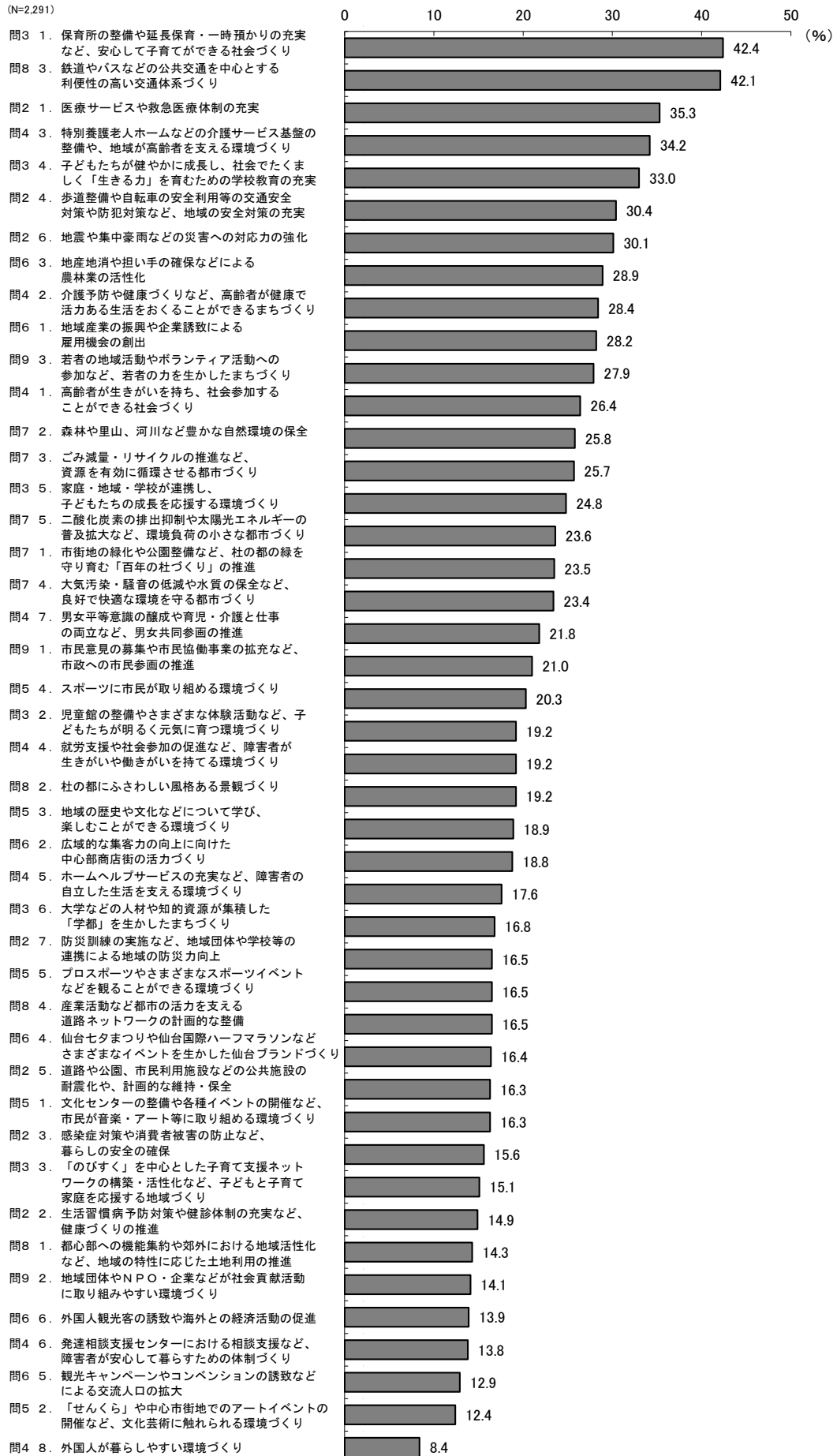
「問 9 市政や公益活動への市民参加の促進」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり」(30.2%)、「2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり」(28.6%)の順に評価が高いものの、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合もそれぞれ 28.8%、25.4%となっている。この施策分野では、“わからない+無回答”の割合が、いずれの項目においても 40%を超えている。これらの施策に対する認知度が課題となっており、引き続き広報活動も含めた施策を行っていく必要があると考えられる。

【復旧・復興以外の施策】に対する回答について、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合の上位 5 項目は 19 ページの表のとおりとなっており、平成 26 年度に引き続き、文化・スポーツ、ごみ減量・リサイクルなどに関する取り組みが上位となっている。

また、上位 5 項目について、平成 26 年度との比較を見ると、平成 27 年度においても 1 位から 4 位まで同じ項目が入っており、同様の傾向となっている。なお、平成 26 年度では 6 位 (65.3%) であった「文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり」は平成 27 年度では 5 位となっている。また、平成 26 年度では 5 位 (65.6%) であった「市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進」は平成 27 年度では 6 位 (62.3%) となっている。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧

問2から問9 今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。(○は複数可)



今後、特に力を入れるべき施策（上位5項目の経年比較）

	平成27年度	平成26年度	平成25年度
1位	保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり 42.4%	保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり 46.7%	保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり 46.0%
2位	鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり 42.1%	鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり 45.1%	鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり 44.2%
3位	医療サービスや救急医療体制の充実 35.3%	医療サービスや救急医療体制の充実 39.6%	医療サービスや救急医療体制の充実 38.3%
4位	特別養護老人ホームなどの介護サービスの基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり 34.2%	特別養護老人ホームなどの介護サービスの基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり 38.4%	特別養護老人ホームなどの介護サービスの基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり 34.5%
5位	子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実 33.0%	子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実 31.7%	子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実 32.4%
		若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり 31.7%	

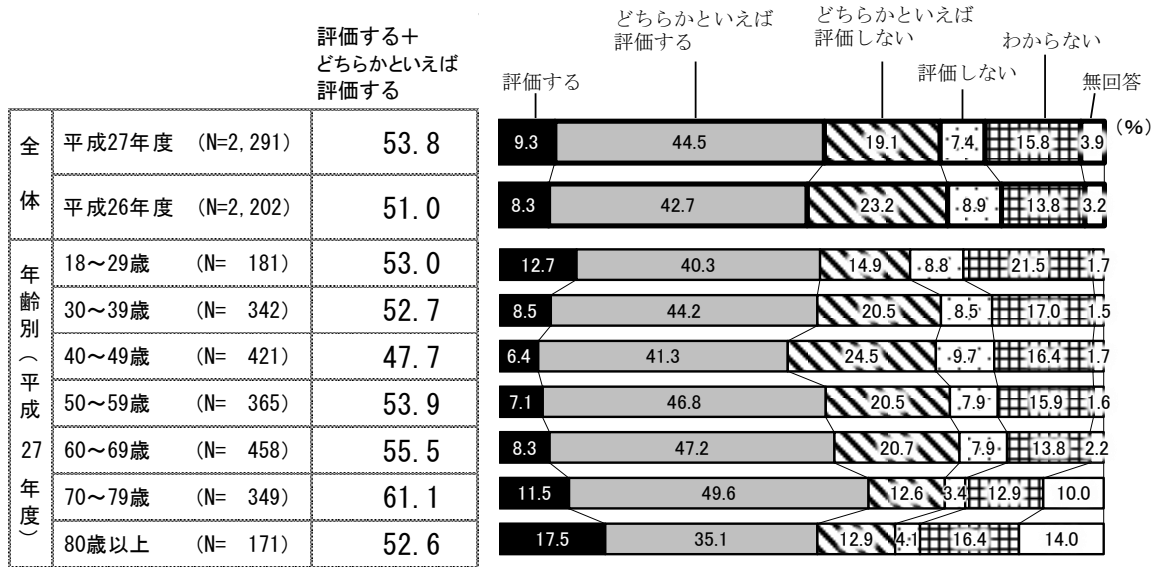
「今後、特に力を入れるべき施策」については、「問3 1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり」（42.4%）が平成25、26年度と同様に最も多くなっている。これは、継続的に認可保育所の新たな整備や定員増加など保育環境基盤の整備を重点的に進めているものの、今後さらなる充実を求められている状況が反映されているものと考えられる。

次いで、「問8 3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり」（42.1%）、「問2 1. 医療サービスや救急医療体制の充実」（35.3%）の順となっているが、これらは、取り組みに対する評価がいずれも“評価する＋どちらかといえば評価する”の割合が50%前後と比較的高くなっており、これは日常の市民生活の利便性の向上や安全・安心の確保に向けての基本的な施策として、さらなる充実が求められているものと考えられる。

上位5項目について、平成26年度との比較を見ると、平成27年度においても平成26年度で同率で5位となった「若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり」を除くすべての項目が引き続き入っており、概ね同様の傾向である。

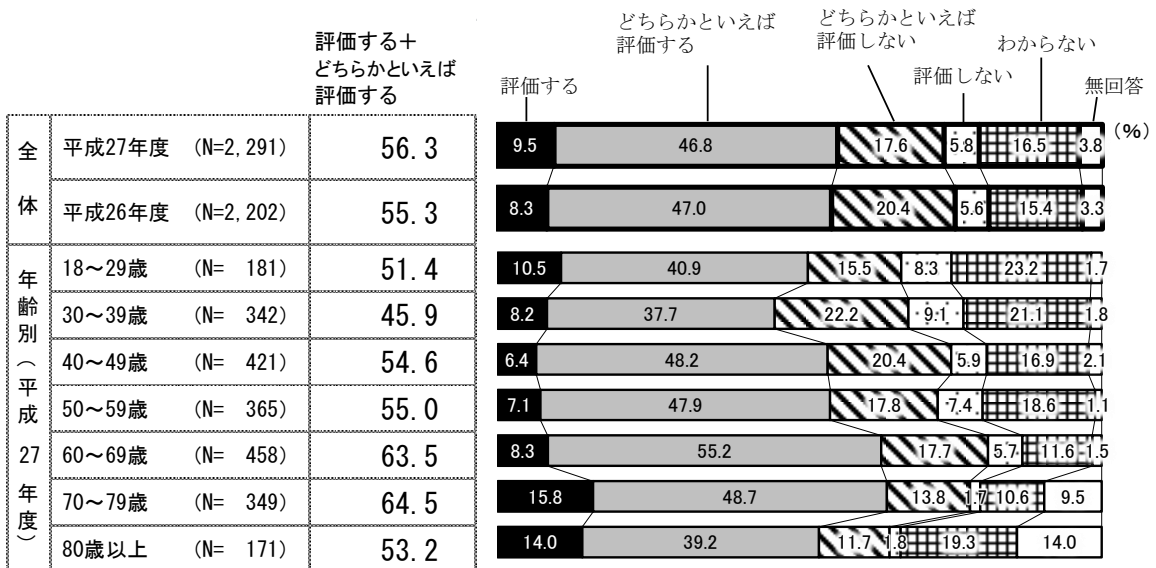
(3) 設問別・属性別結果

問 2 1. 医療サービスや救急医療体制の充実



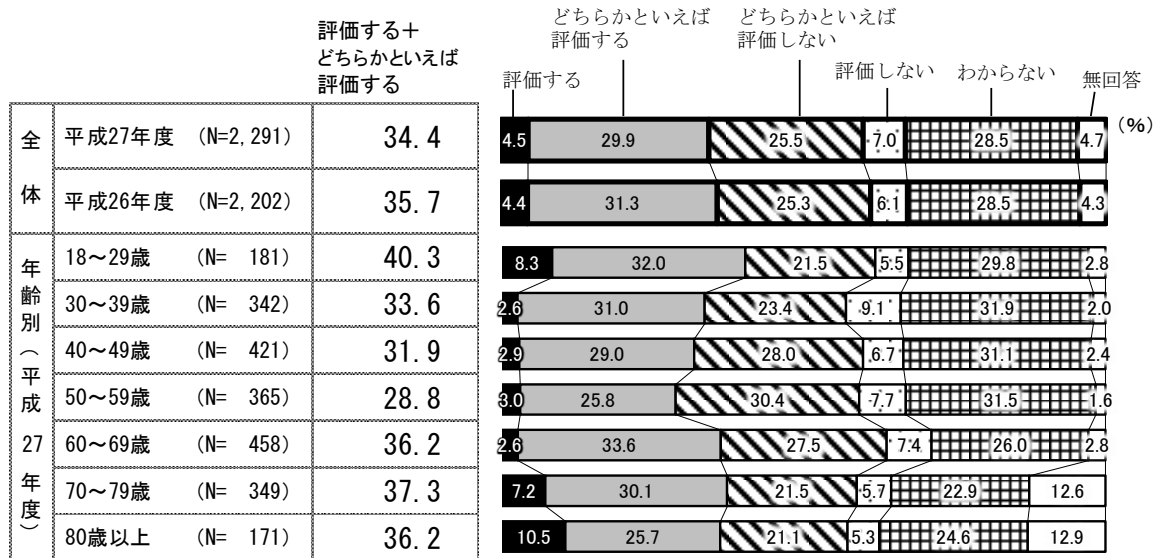
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が53.8%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、70歳代で6割以上と他の年代より高くなっている。

問 2 2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が56.3%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、60歳代、70歳代で高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で他の年齢層より高くなっている。

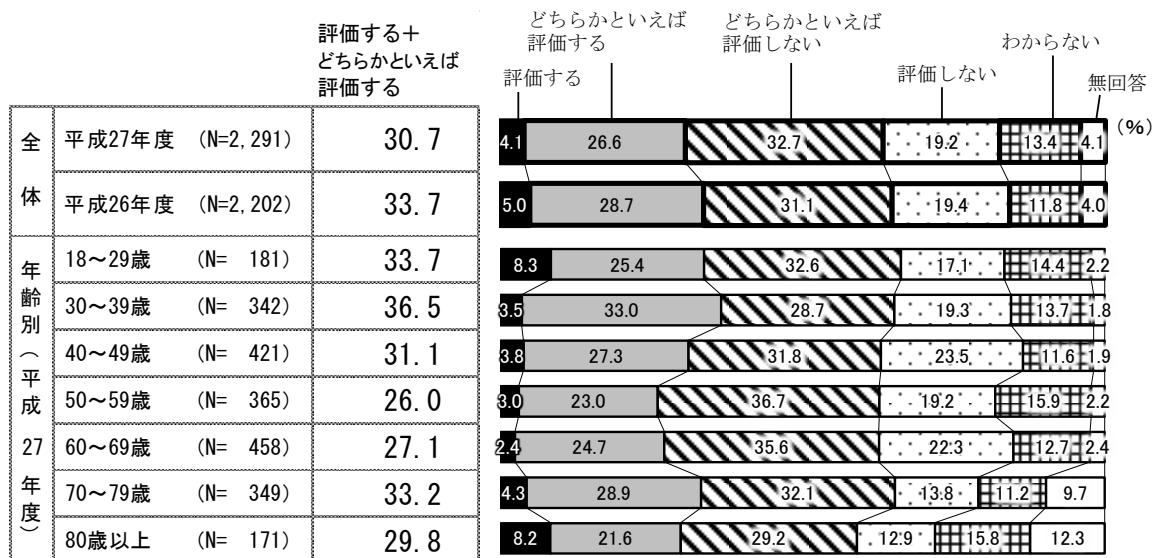
問2 3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が34.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.5%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が33.2%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が若年層および高齢層で高くなっている。

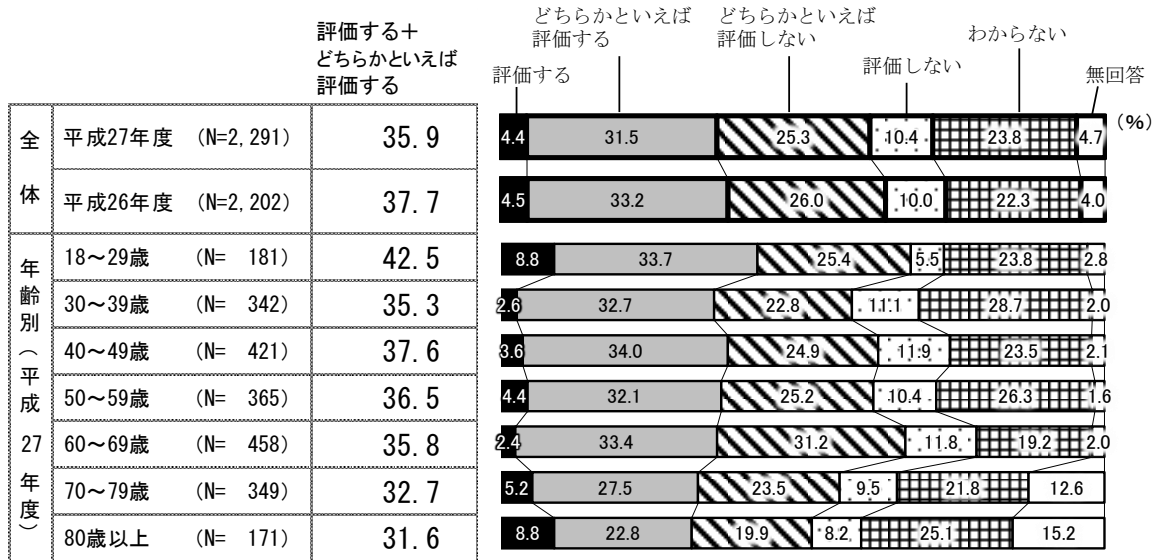
問2 4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(51.9%)を下回っている。

年齢層別では、若年層及び70歳代で他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高くなっている。

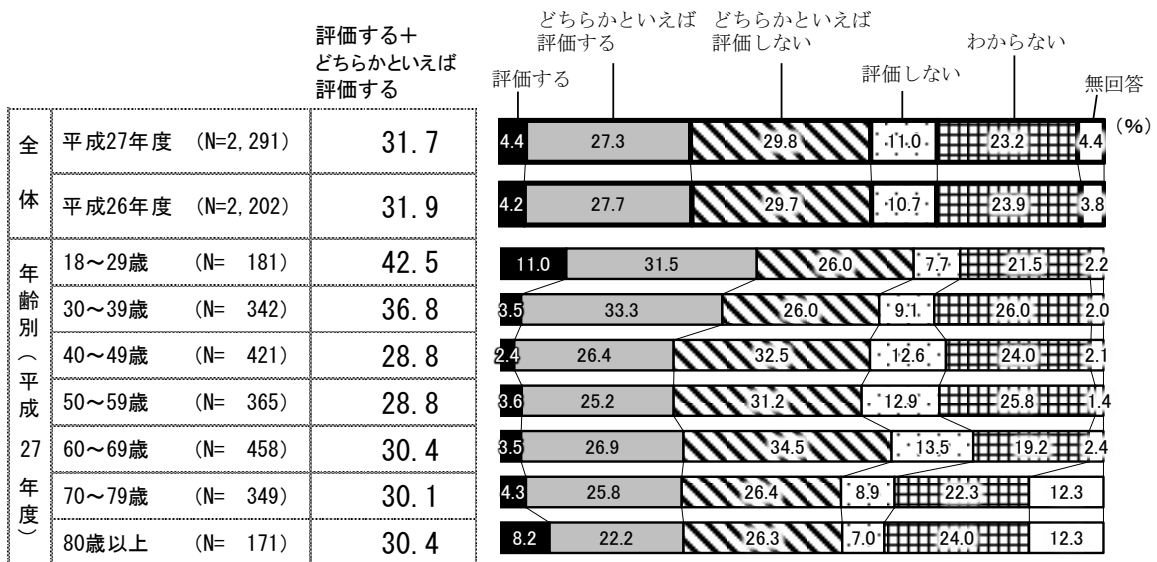
問2 5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が35.9%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(35.7%)と拮抗している。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られ、18~29歳で4割を超えている。

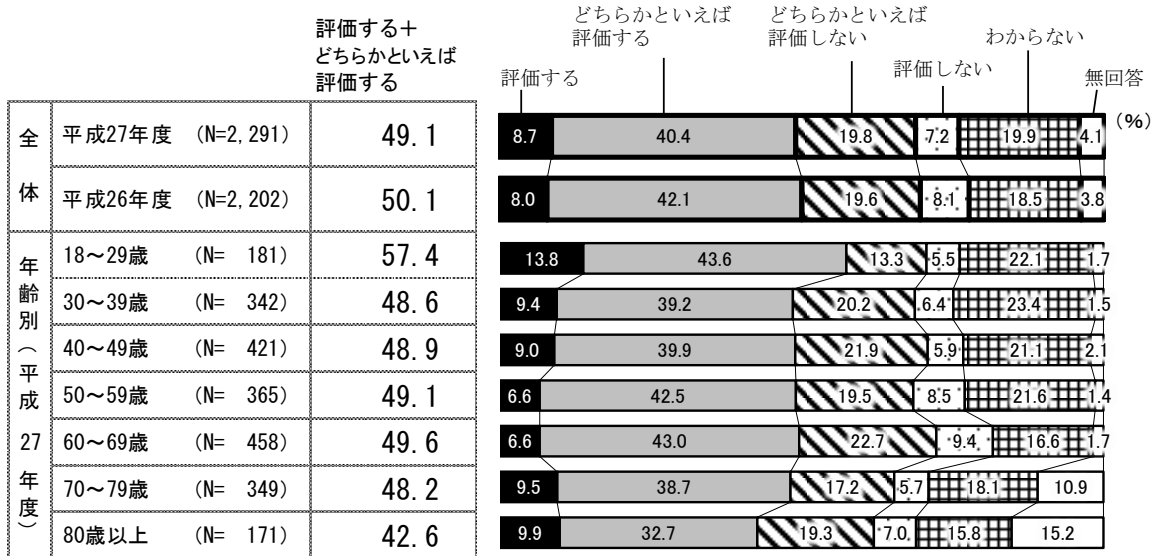
問2 6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が31.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(40.8%)を下回っている。

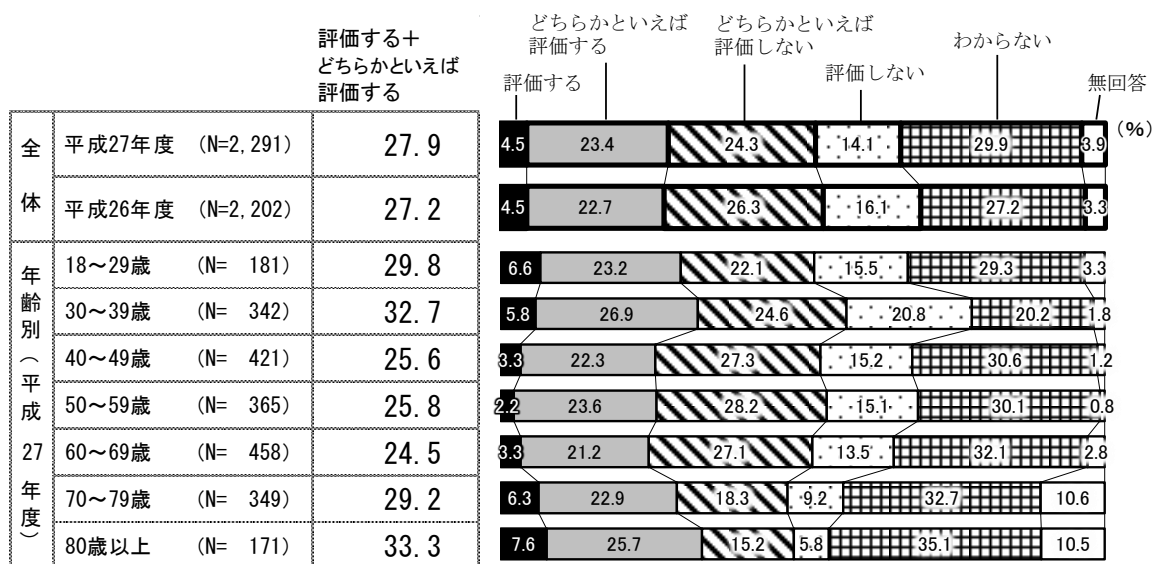
年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、若年層で高くなっている。

問2 7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が49.1%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、18~29歳で他の年齢層と比べ高くなっている。

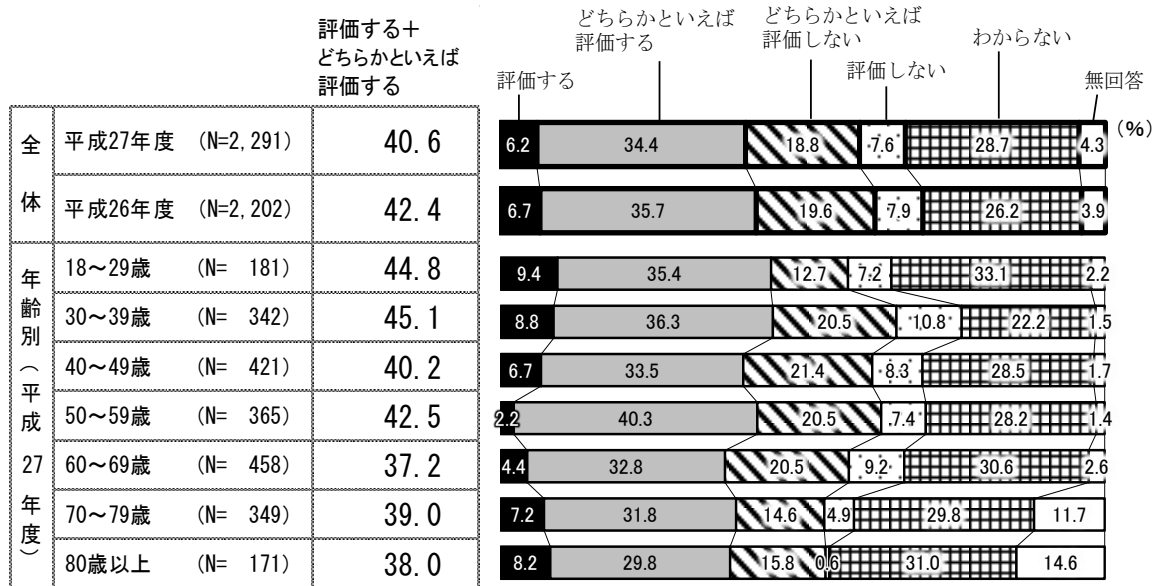
問3 1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が27.9%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(38.4%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合も33.8%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30歳代及び80歳以上で3割以上と他の年代より多くなっている。また、30歳代においては“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合についても高く、45.4%となっている。

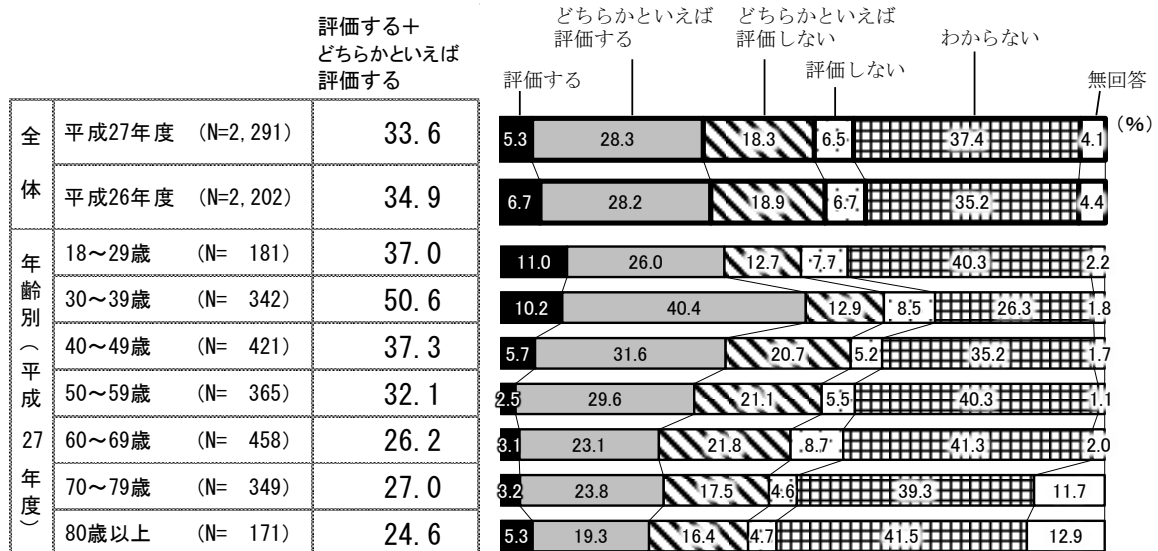
問3 2. 児童館の整備やさまざまな体験活動の機会の確保など、子どもたちが明るく元気に育つ環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が40.6%と高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合についても33.0%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、若年層で他の年齢層より高い傾向となっている。

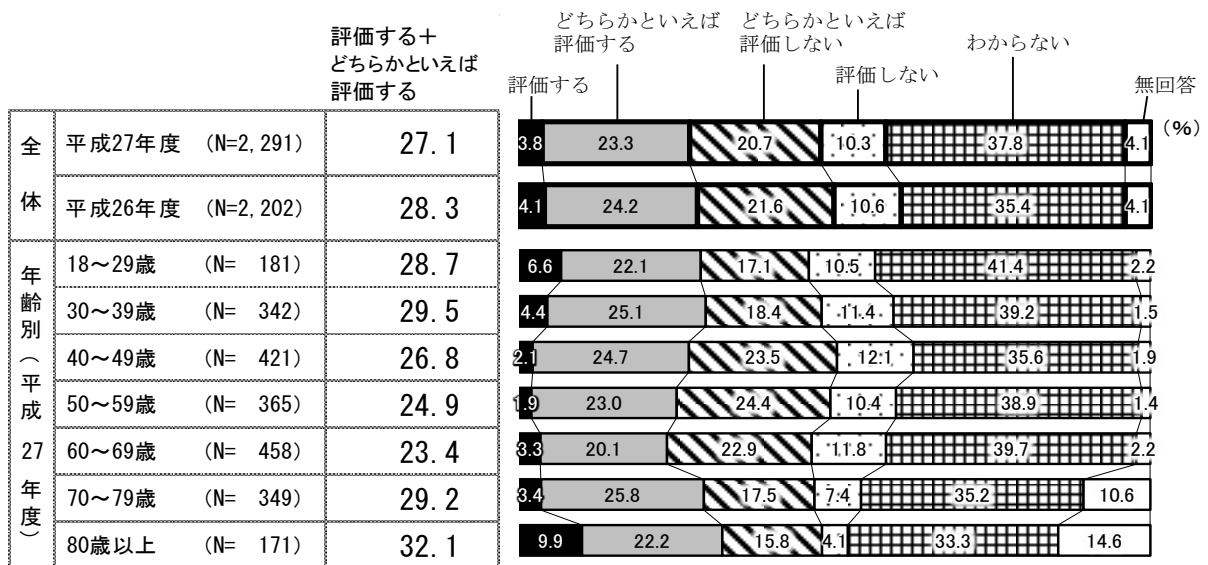
問3 3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が33.6%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(24.8%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が41.5%と高くなっている。

年齢層別では、30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が50.6%と最も高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が70歳以上で高く、5割を超えている。

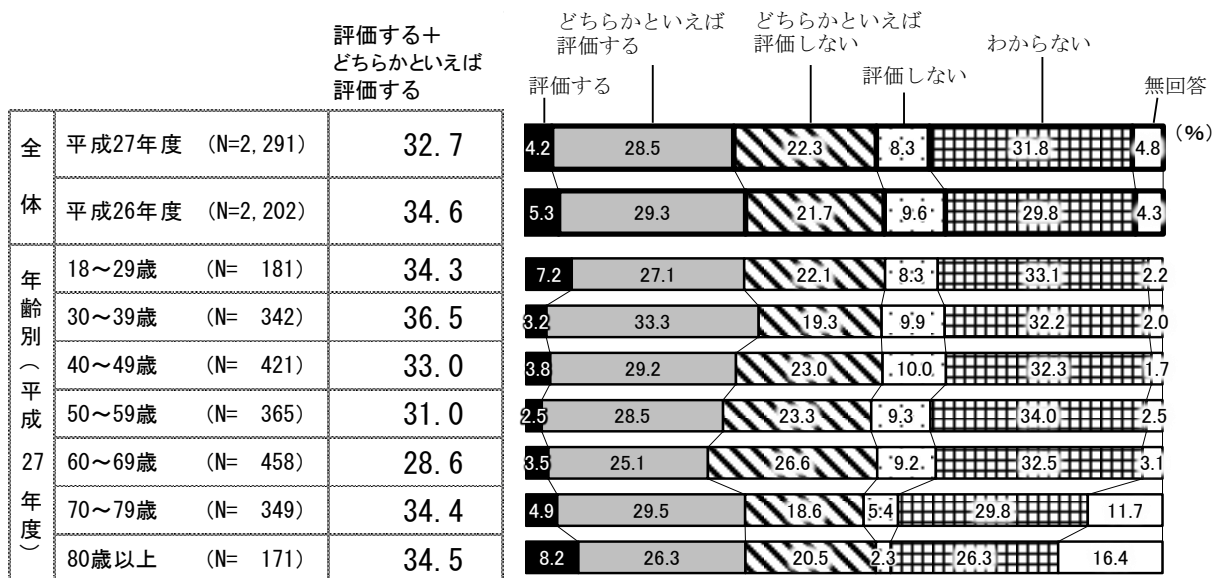
問3 4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が27.1%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(31.0%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が41.9%と高くなっている。

年齢層別では、若年層と高齢層で“評価する+どちらかといえば評価する”、“わからない+無回答”の割合が高い傾向となっている。

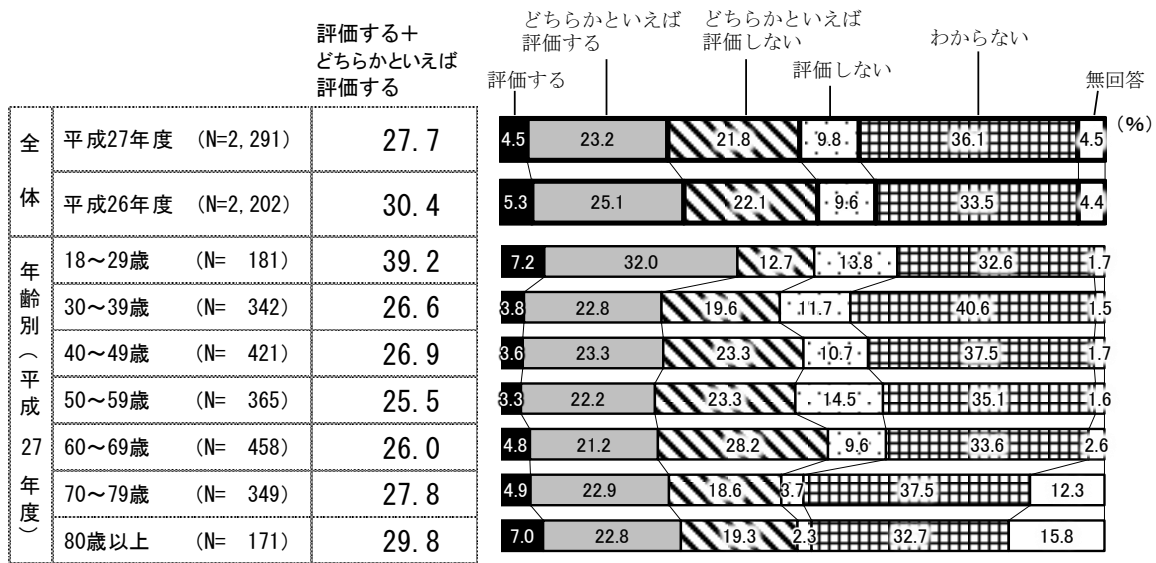
問3 5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が32.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(30.6%)を若干上回っている。また、“わからない+無回答”の割合が36.6%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、40歳未満及び70歳以上で高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が70歳以上で他の年齢層より高くなっている。

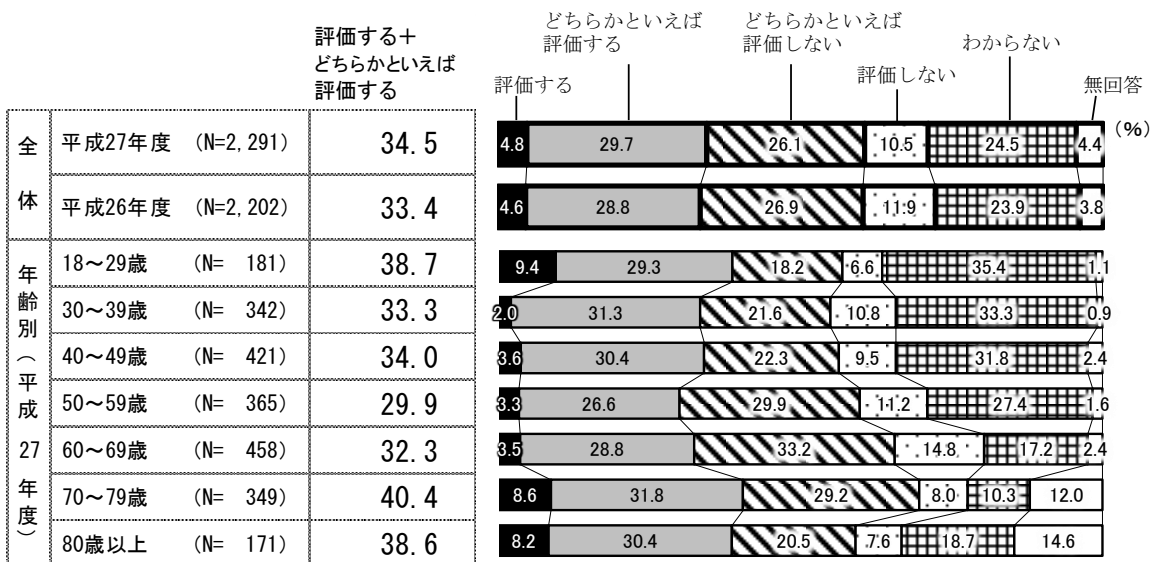
問3 6. 大学などの人材や知的資源の集積による「学都」を生かしたまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が27.7%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(31.6%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が40.6%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より特に高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が70歳以上で特に高くなっている。

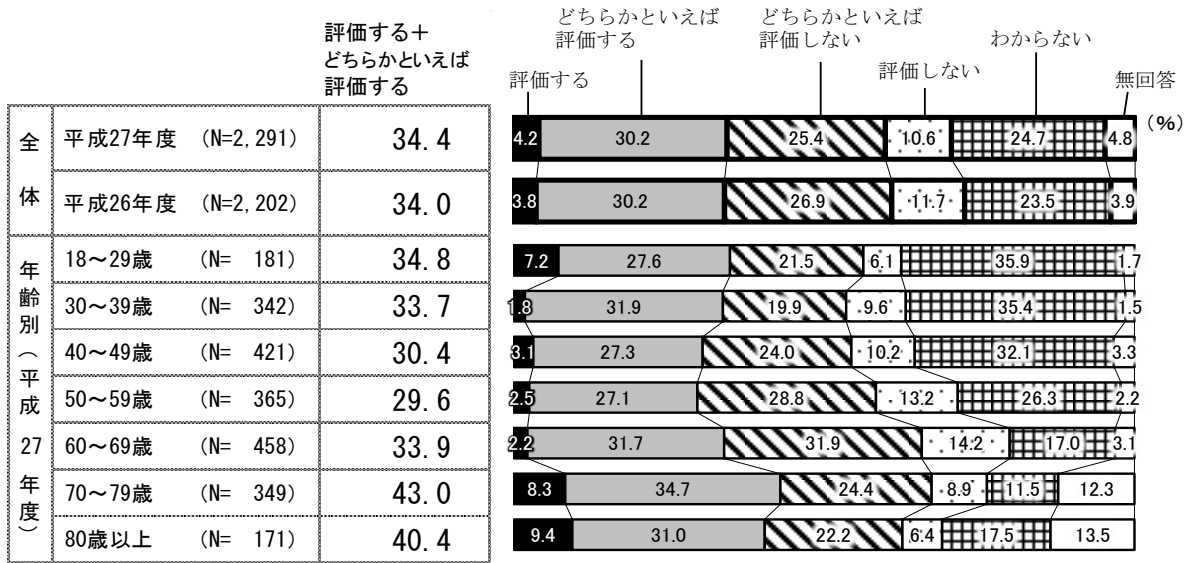
問4 1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が34.5%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(36.6%)を若干下回っている。

年齢層別では、若年層のほか、施策の対象の中心となる70歳以上で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高くなっている。一方、“わからない+無回答”が50歳未満及び80歳以上で高くなる傾向が見られる。

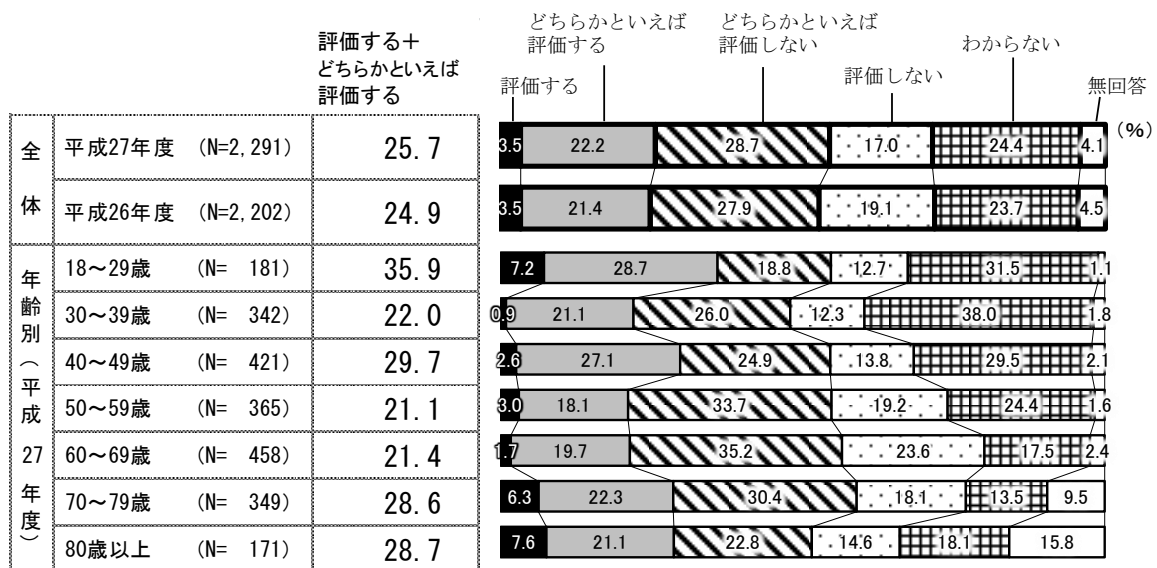
問 4 2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることのできるまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が34.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(36.0%)と拮抗している。

年齢層別では、70歳以上の高齢層で、他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高い。一方、“わからない+無回答”の割合が、50歳未満の年齢層で高い傾向となっている。

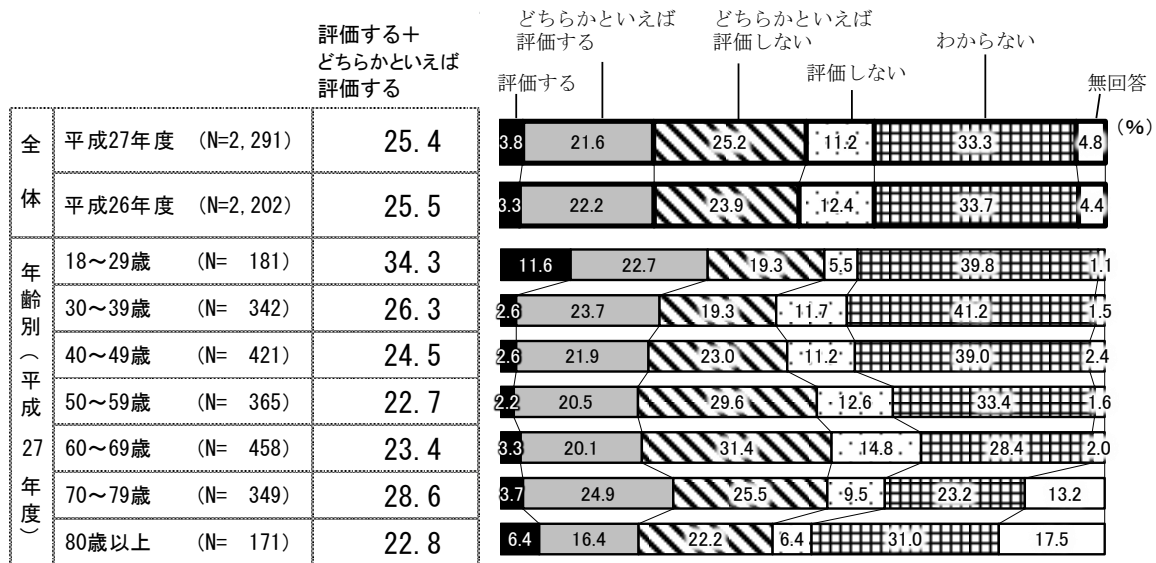
問 4 3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が25.7%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(45.7%)を下回っている。

年齢層別では、18~29歳、40~49歳で、他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、50歳未満及び80歳以上で高くなっている。

問4 4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が25.4%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(36.4%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が38.1%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が3割を超えており、他の年齢層より評価が高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、80歳以上で高くなっている。

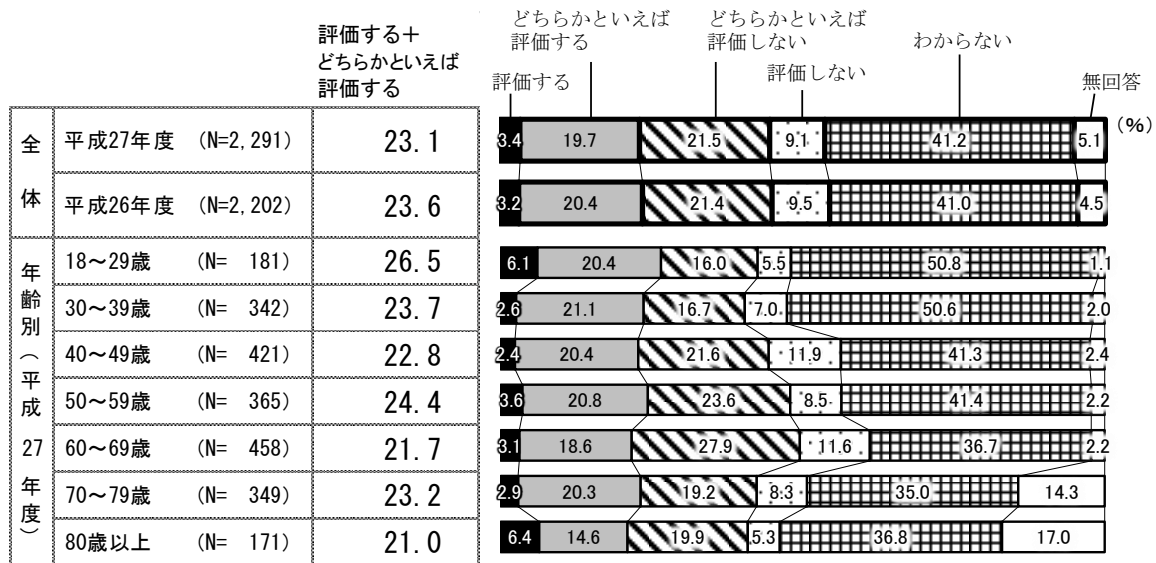
問4 5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が25.7%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(33.1%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が41.3%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が33.7%となっており、他の年齢層より評価が高くなっている。

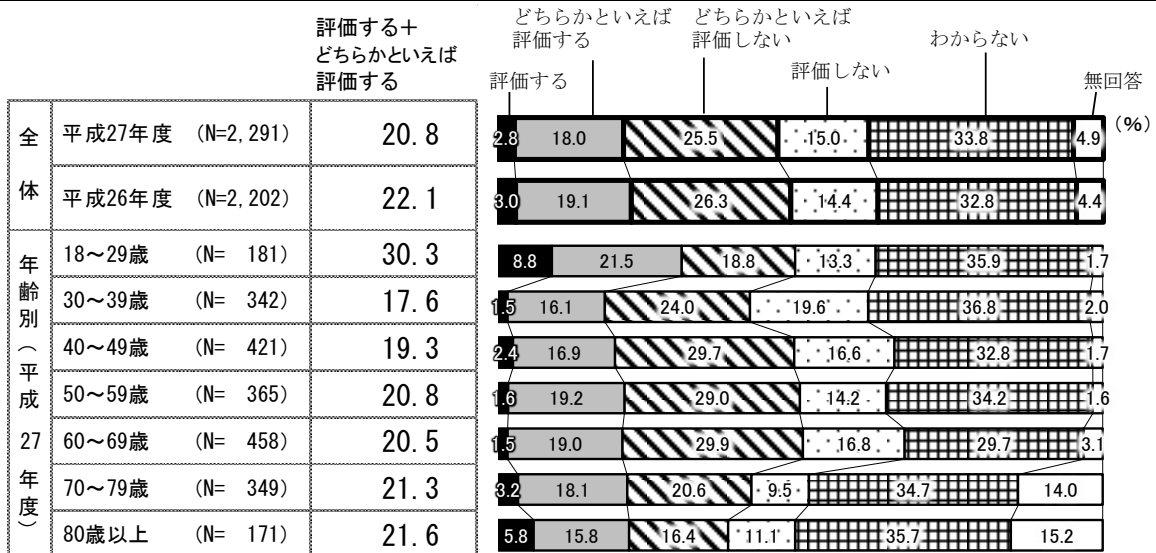
問4 6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が23.1%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(30.6%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が46.3%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より評価が高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、若年層及び高齢層で高くなっている。

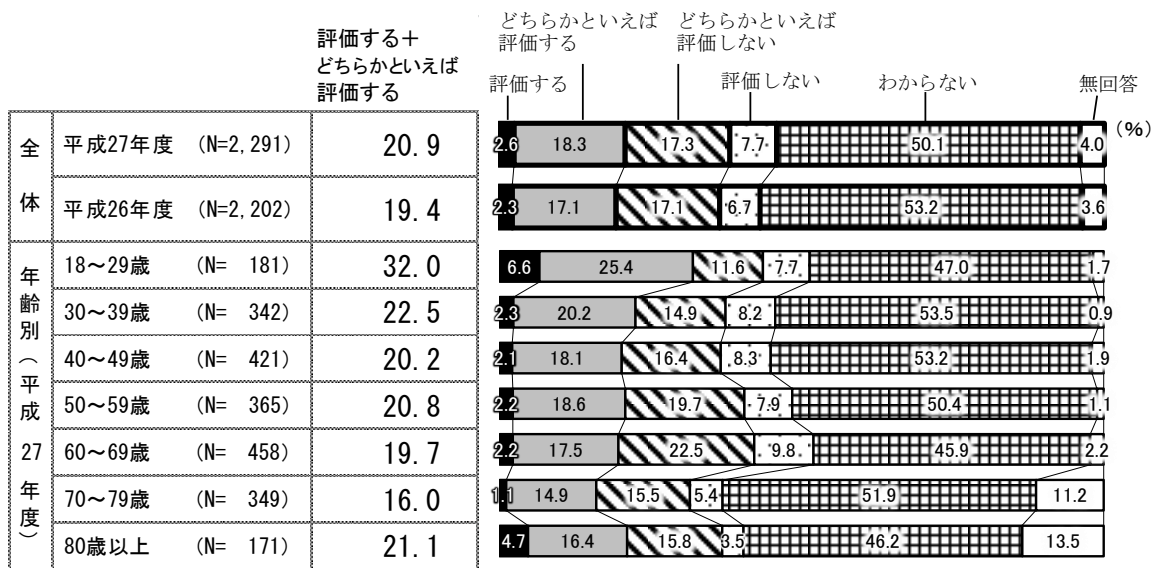
問4 7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が20.8%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(40.5%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が38.7%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、18~29歳で他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、70歳以上で高く、5割前後となっている。

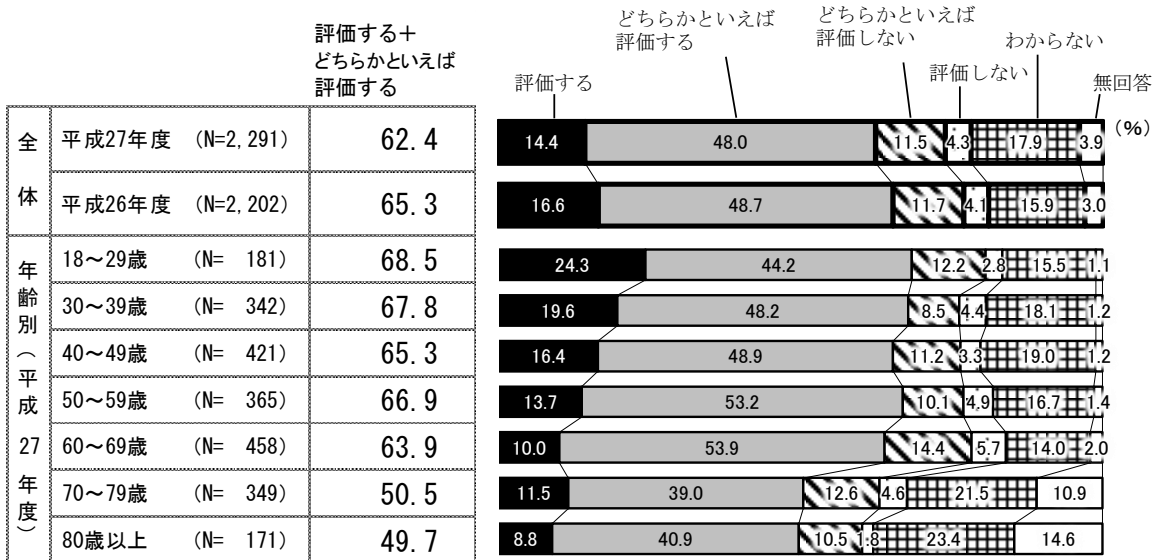
問4 8. 外国人が暮らしやすい環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が20.9%にとどまっております、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(25.0%)を下回っています。一方、“わからない+無回答”の割合が54.1%と非常に高くなっています。

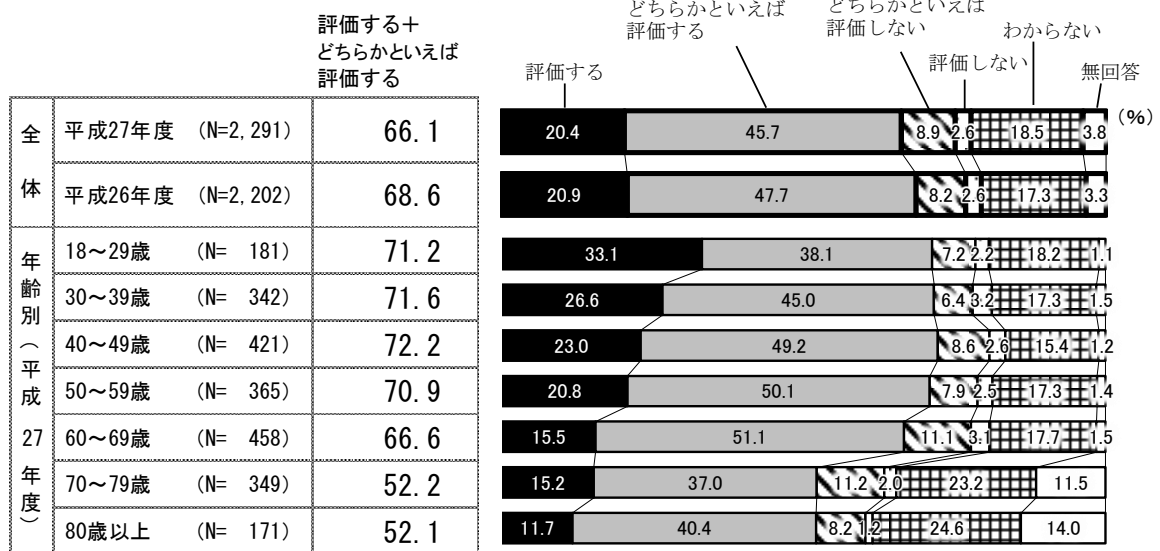
年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、18~29歳で他の年齢層より高くなっています。

問5 1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、音楽・アート等に市民が取り組める環境づくり



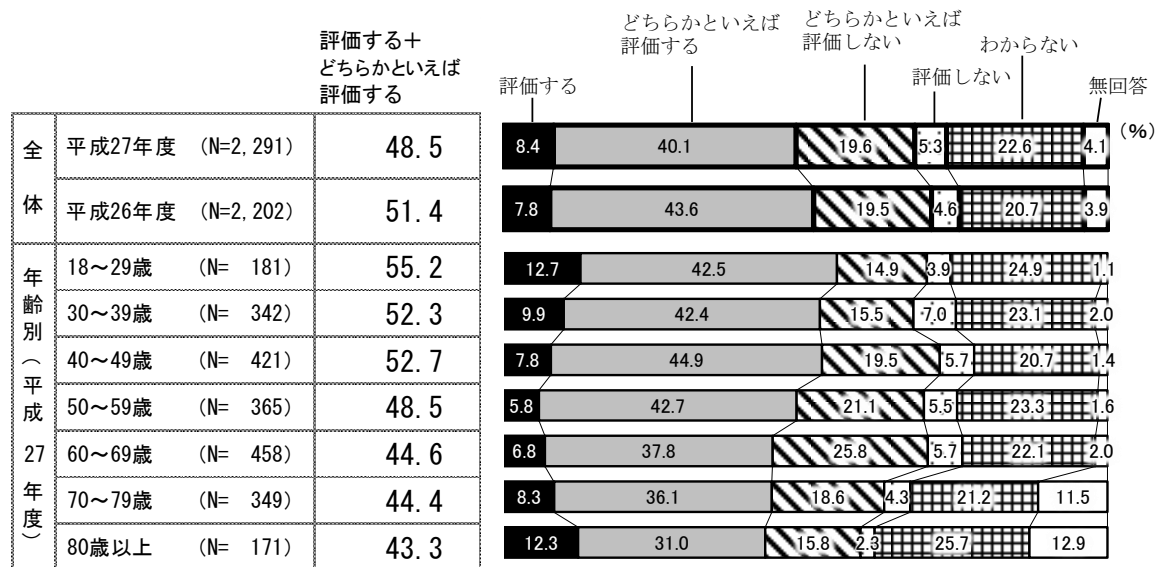
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が62.4%と非常に高くなっています。また、年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、70歳未満でとても高くなっています。

問5 2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり



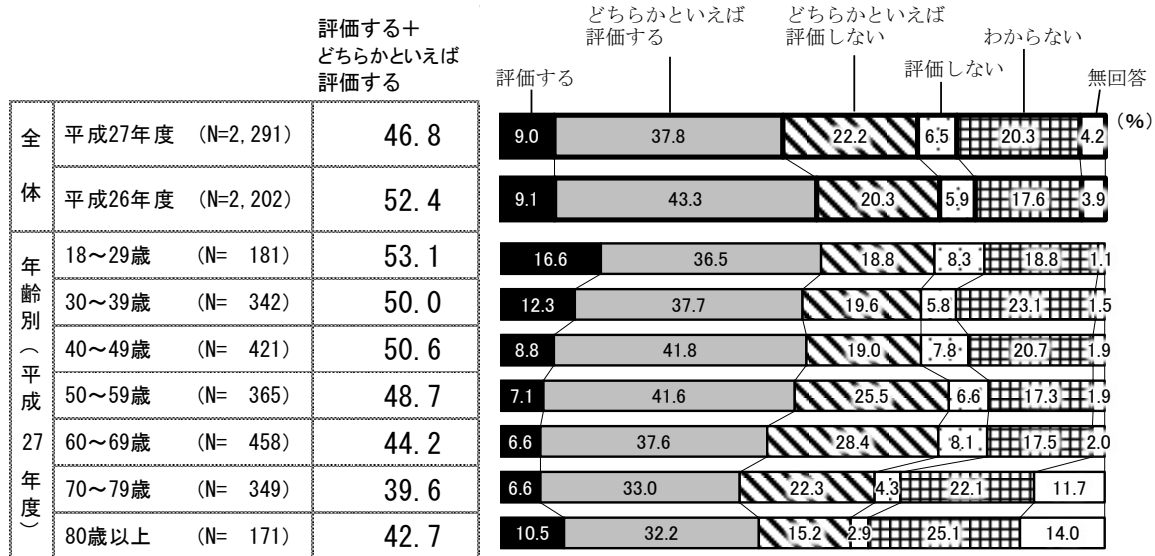
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が66.1%と非常に高くなっている。年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、60歳未満で他の年齢層よりも高く、7割を超えている。

問5 3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり



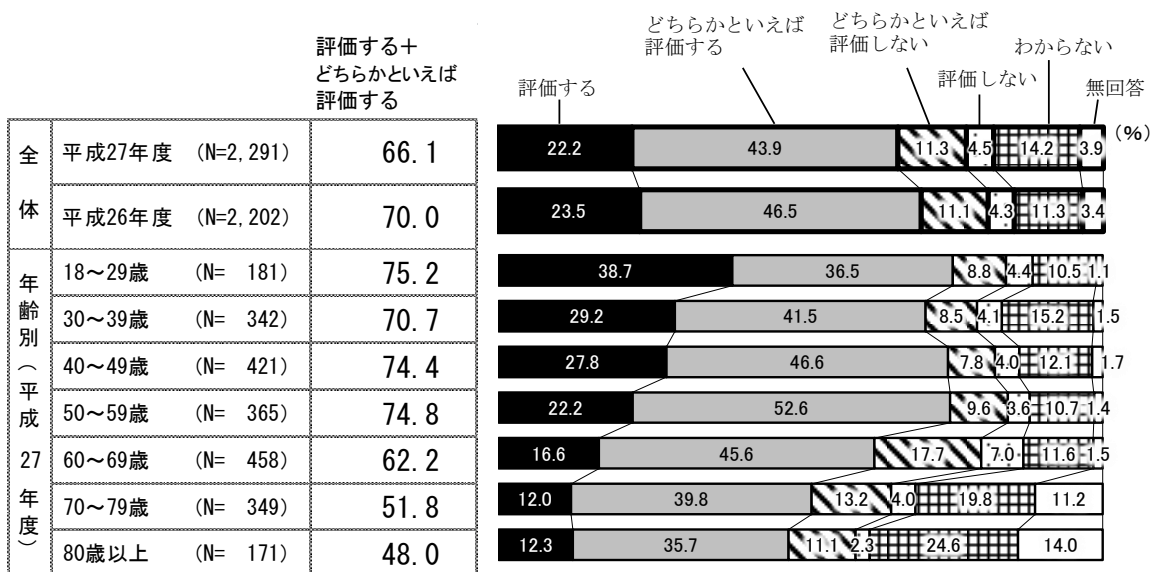
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が48.5%と高くなっている。年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、概ね年齢層が下がるほど高くなっており、特に50歳未満の年齢層で高くなっている。

問5 4. スポーツに市民が取り組める環境づくり



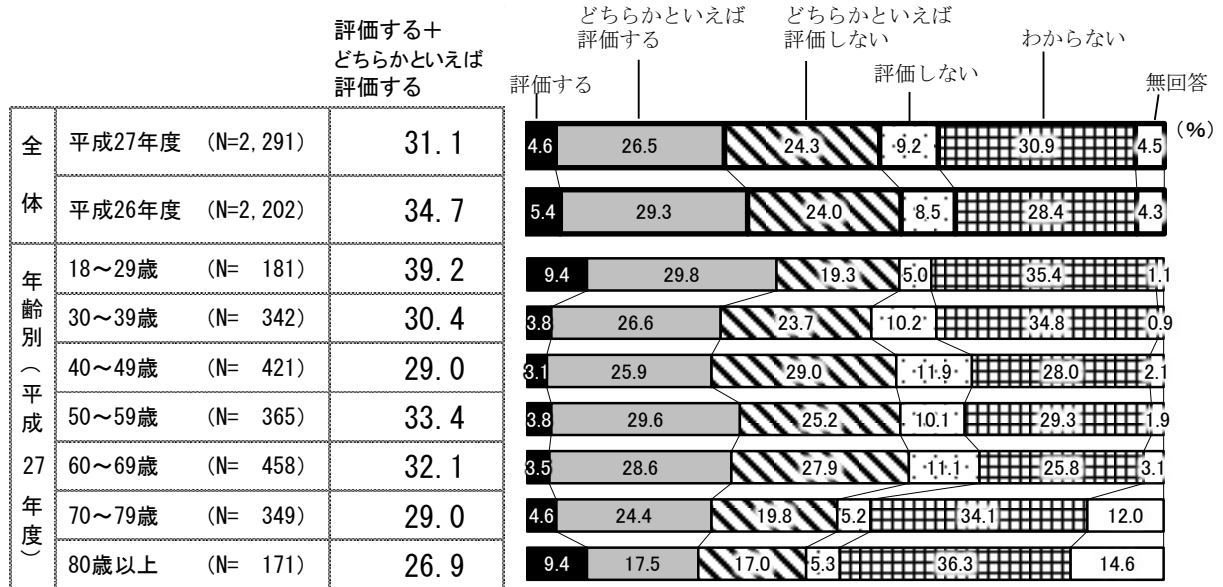
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が46.8%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、概ね年齢層が下がるほど高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、70歳以上で高くなっている。

問5 5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が66.1%と非常に高くなっている。
 年齢層別では、60歳未満では“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は他の年齢層よりも高く、7割を超えている。一方、“わからない+無回答”の割合が、70歳以上で高くなっている。

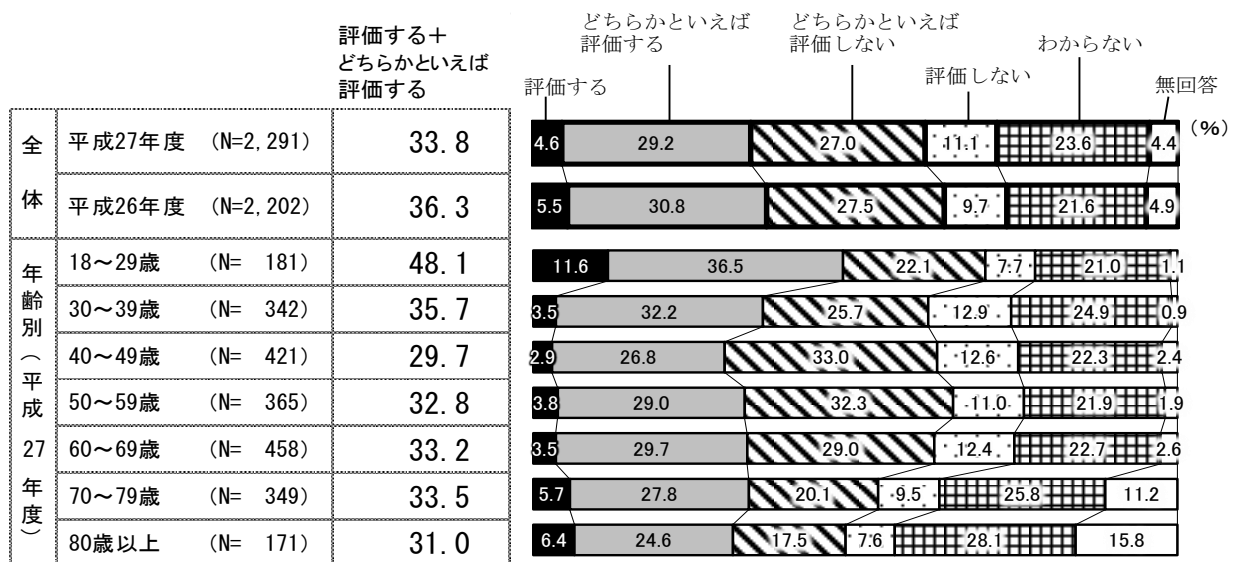
問6 1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が31.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(33.5%)を若干下回っている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、18~29歳でほぼ4割となっており、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、70歳以上で高くなっている。

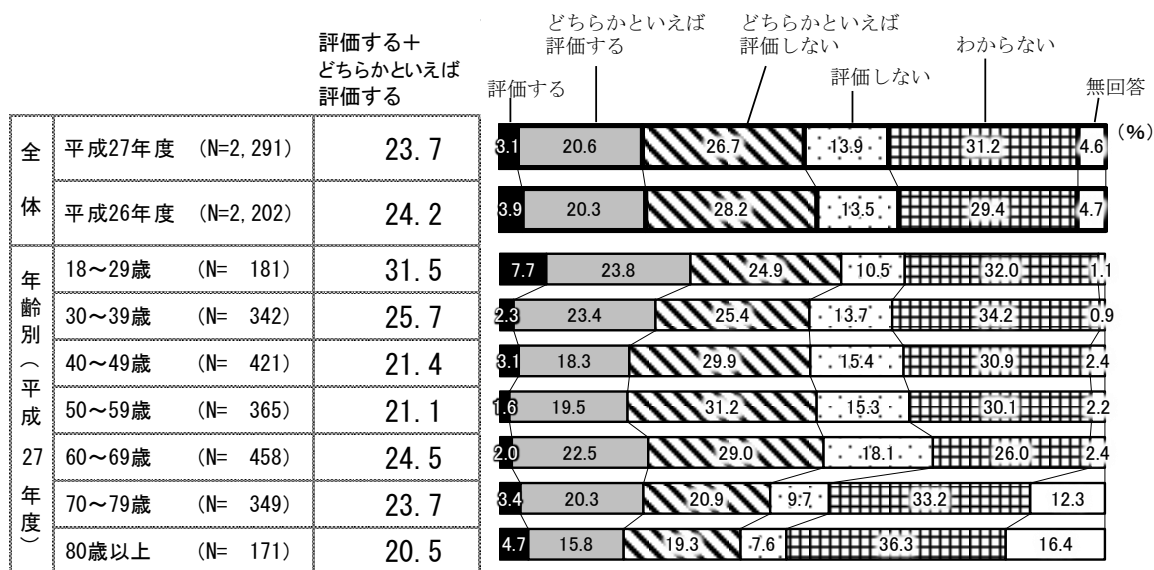
問6 2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活力づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が33.8%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(38.1%)を下回っている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が5割近くとなっており、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、70歳以上で高くなっている。

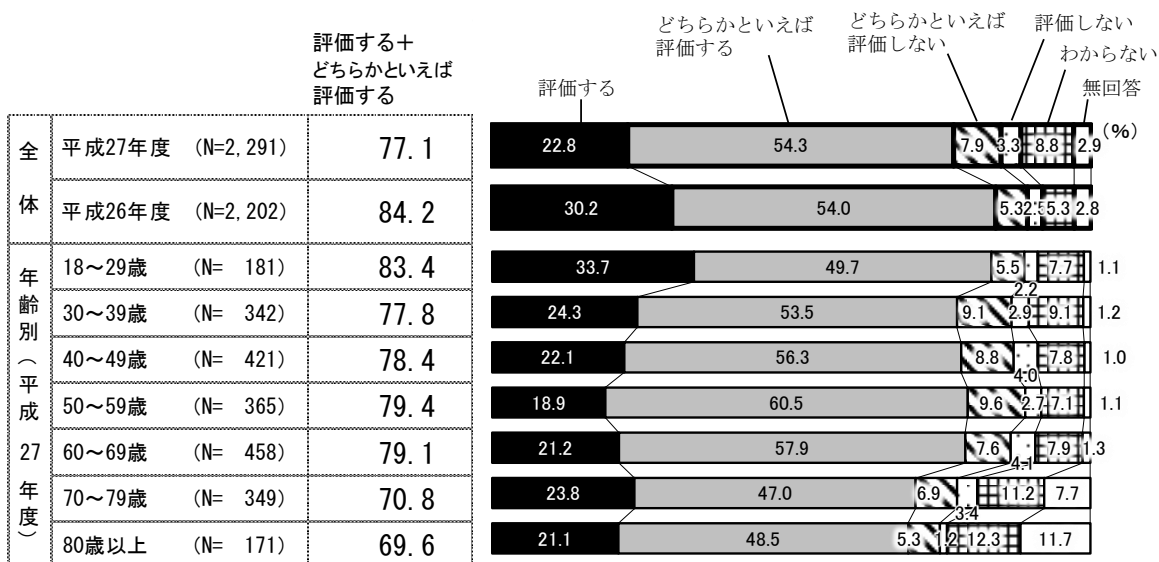
問6 3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が23.7%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(40.6%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が35.8%と高くなっている。

年齢層別では、若年層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、80歳以上で高く、5割を超えている。

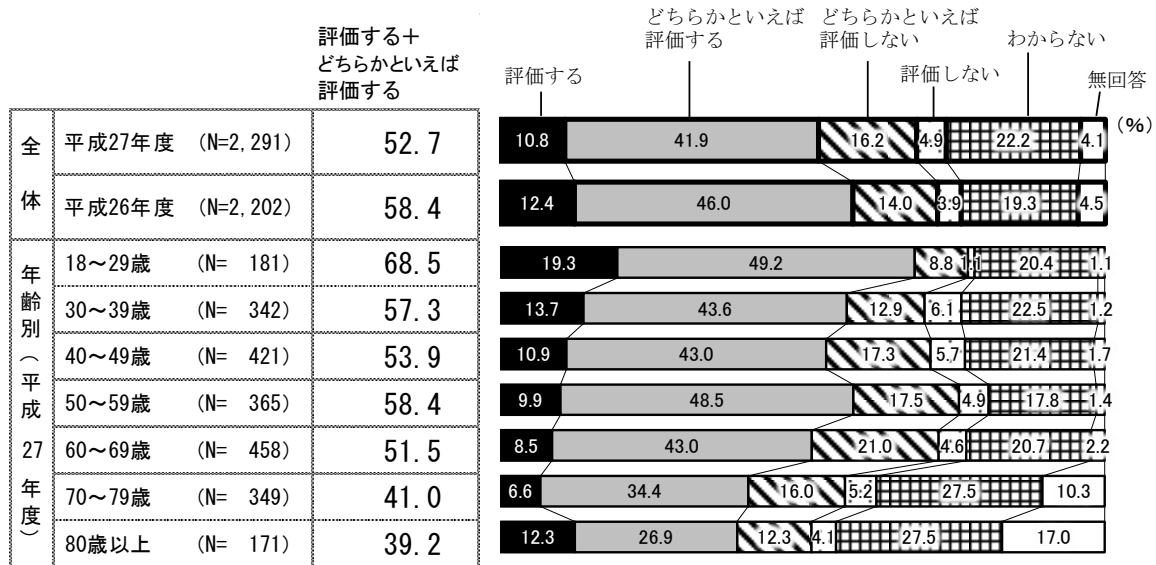
問6 4. 仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が77.1%と非常に高くなっている。

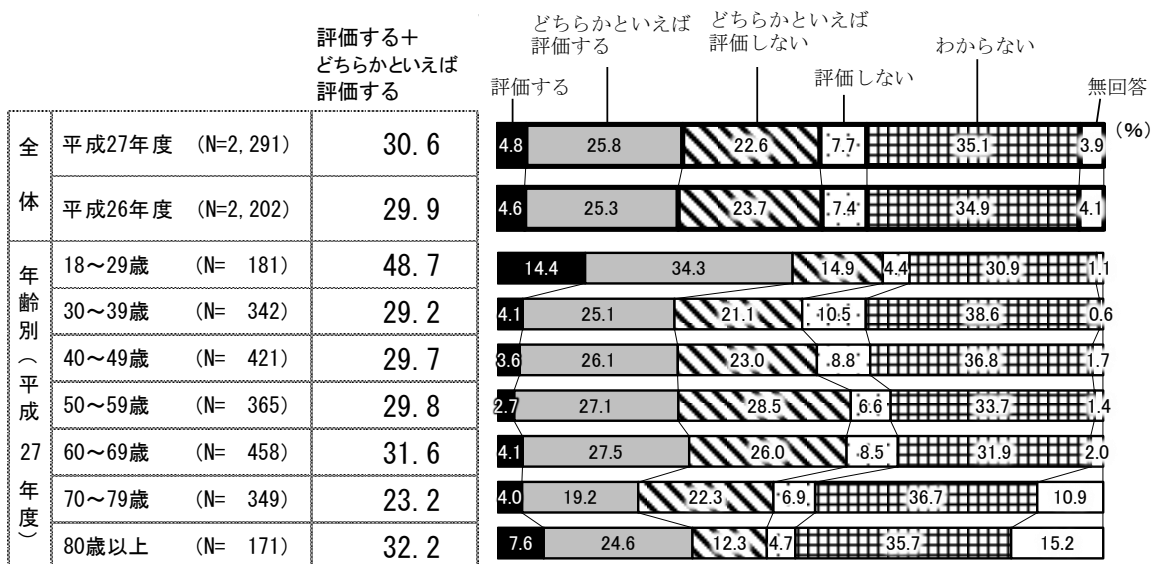
年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、18~29歳で8割を超えており、他の年齢層より高くなっている。

問 6 5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大



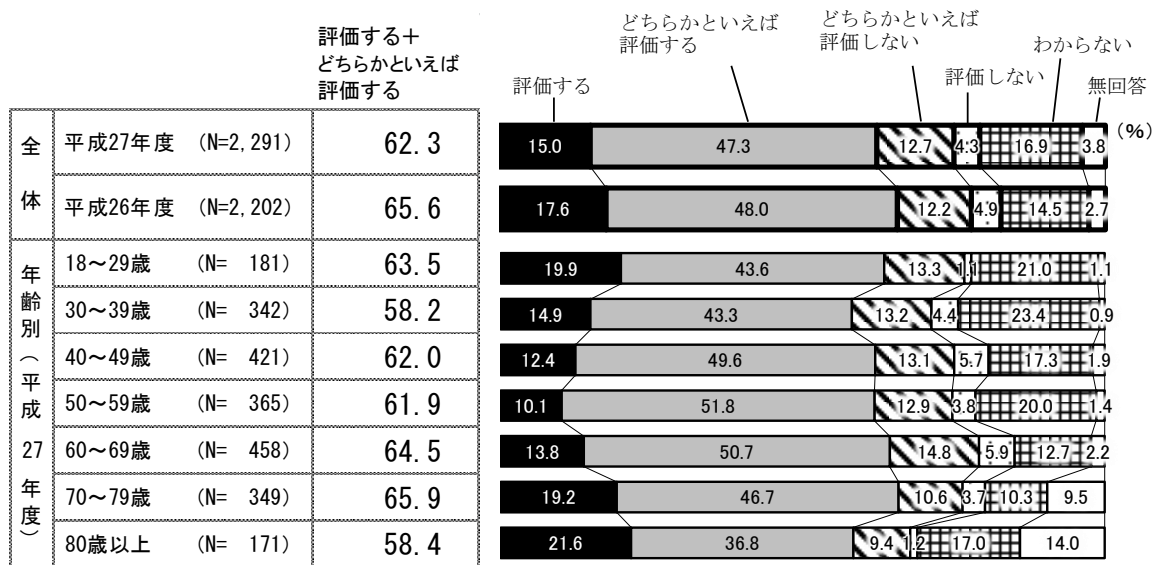
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が52.7%と高くなっている。
 年齢層別では、70歳未満で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が5割を超えており、特に18～29歳で高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向にあり、特に80歳以上で高くなっている。

問 6 6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30.6%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(30.3%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合が39.0%と高くなっている。
 年齢層別では、18～29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、80歳以上で5割を超えて高くなっている。

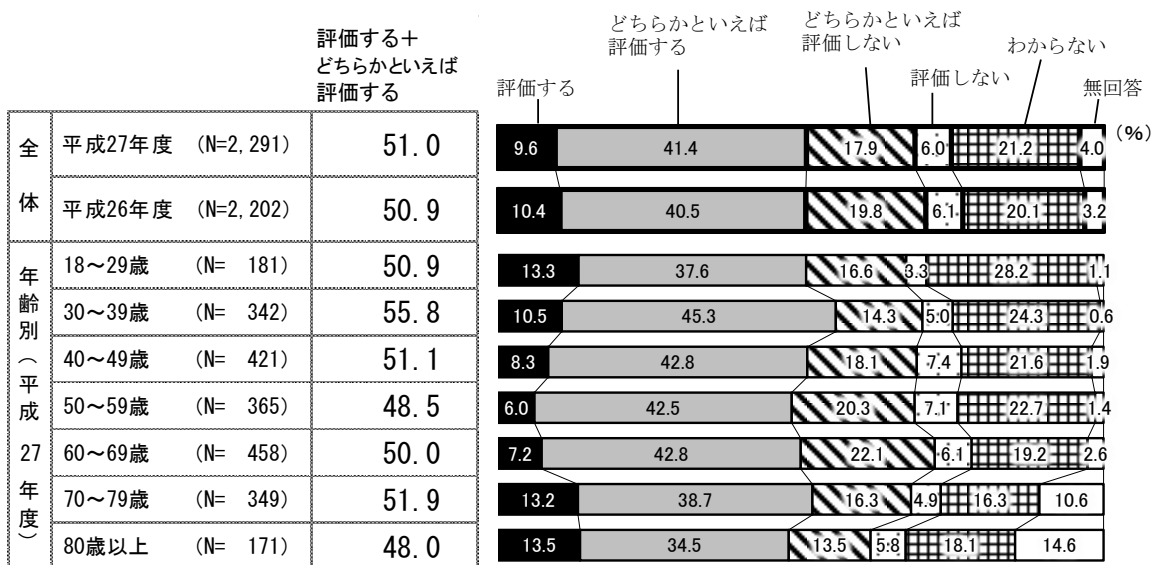
問7 1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が62.3%と非常に高くなっている。

年齢層別では、大きな差は見られないが、70歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層よりやや高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で高くなっている。

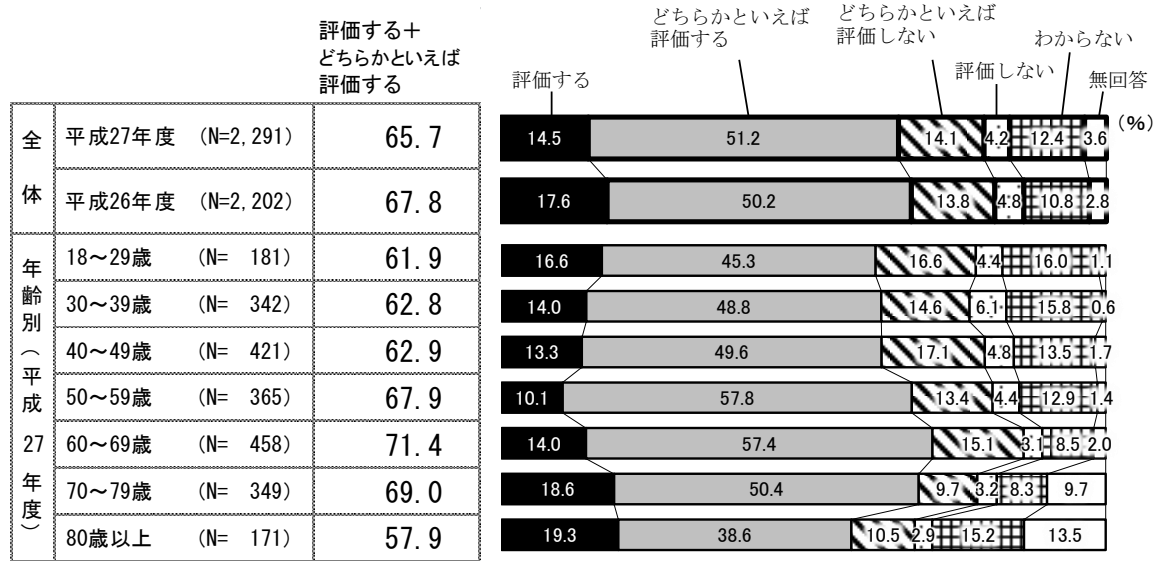
問7 2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が51.0%と高くなっている。

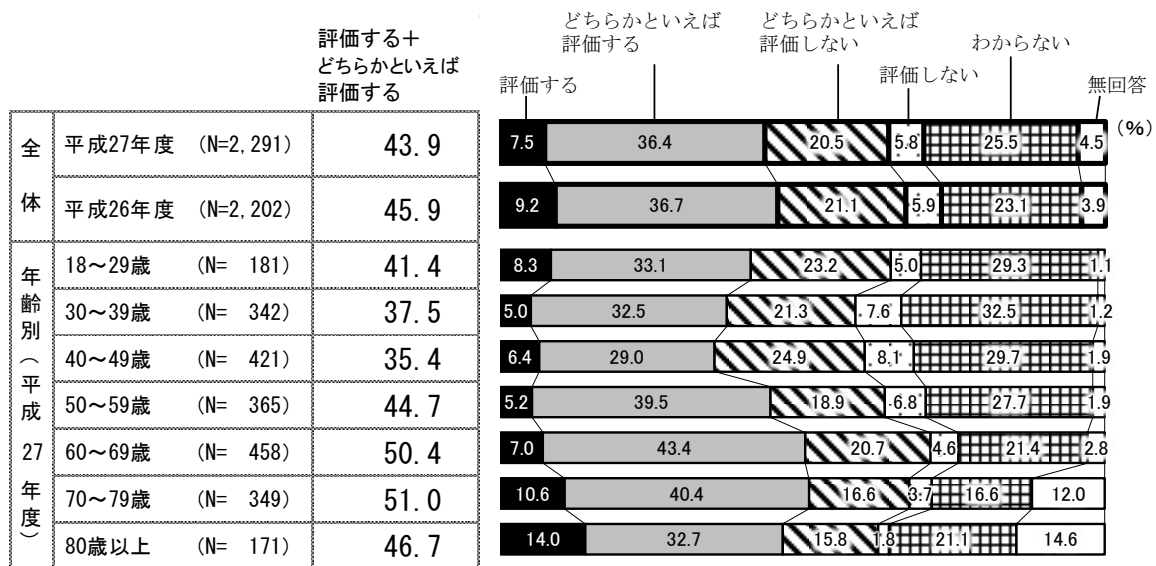
年齢層別では、大きな差は見られないが、30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より高くなっている。

問7 3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり



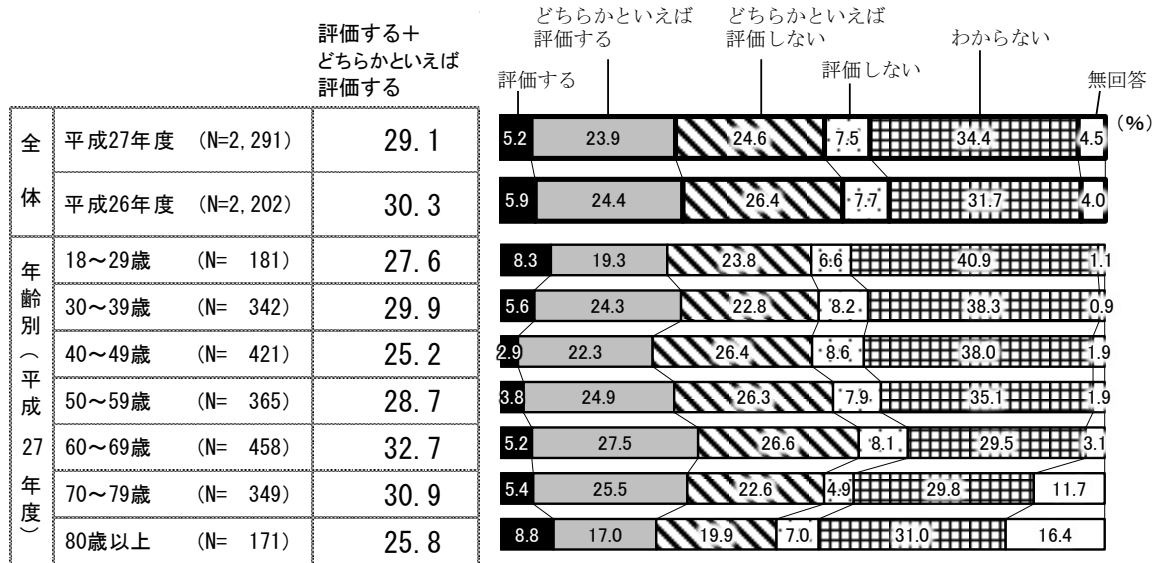
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が65.7%と非常に高くなっている。年齢層別では、60歳代で7割を超えており、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で高くなっている。

問7 4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が43.9%と高くなっている。年齢層別では、高齢層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に60歳代及び70歳代で5割を超えている。一方、“わからない+無回答”の割合が、30歳代と80歳以上で高くなっている。

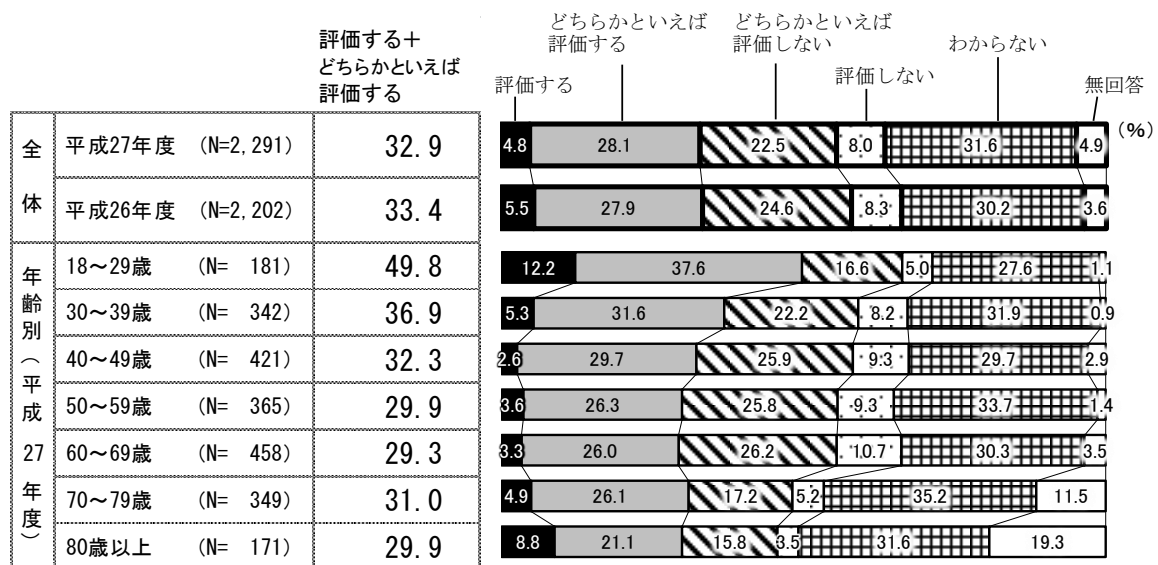
問7 5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が29.1%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.1%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が38.9%と高くなっている。

年齢層別では、60歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、若年層及び高齢層で、他の年齢層より高くなっている。

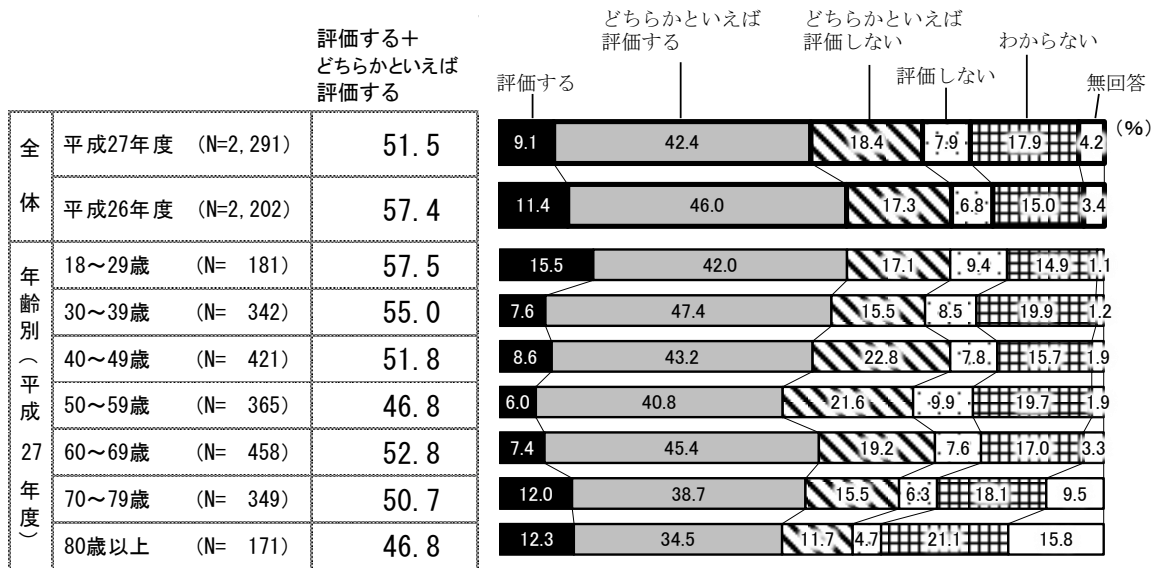
問8 1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が32.9%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(30.5%)を若干上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が36.5%と高くなっている。

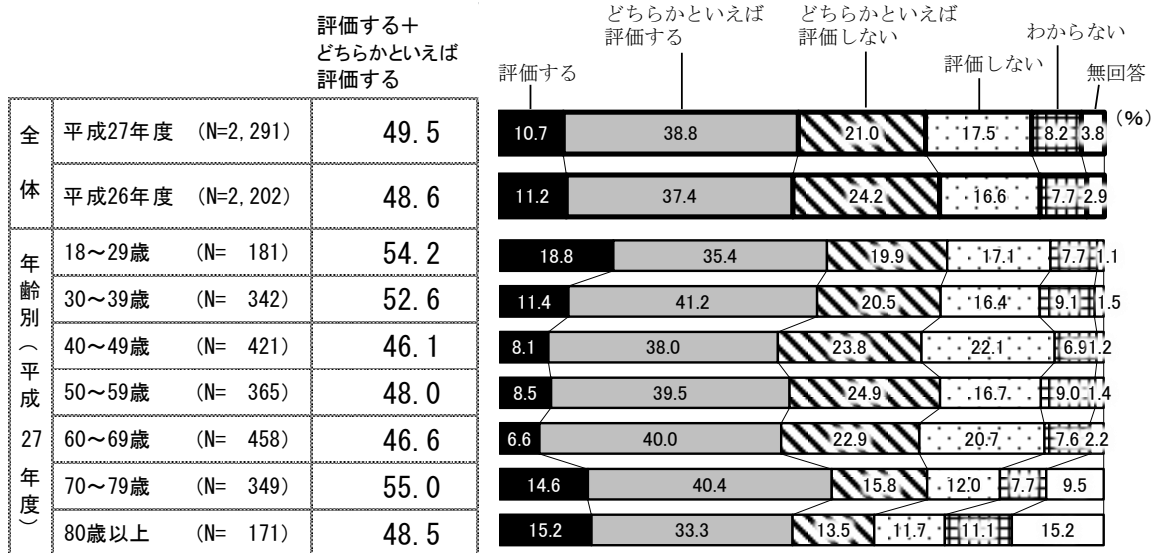
年齢層別では、若年層及び高齢層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に18~29歳では5割程度となっている。

問8 2. 社の都にふさわしい風格ある景観づくり



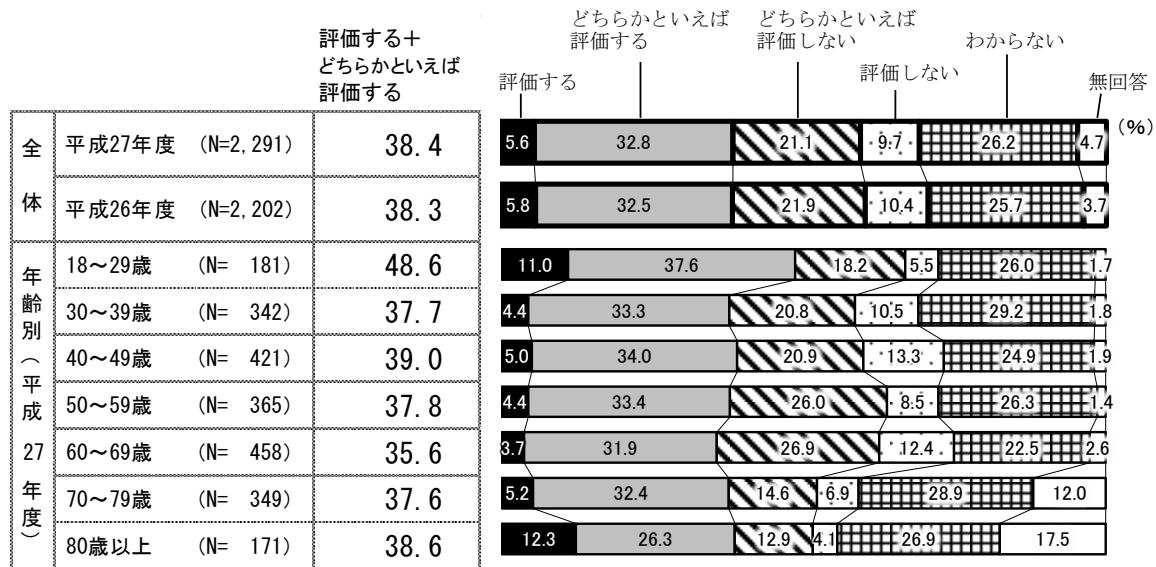
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が51.5%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が18~29歳で他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は70歳以上で他の年齢層より高くなっている。

問8 3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が49.5%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、若年層及び70歳代で高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は70歳以上で他の年齢層より高くなっている。

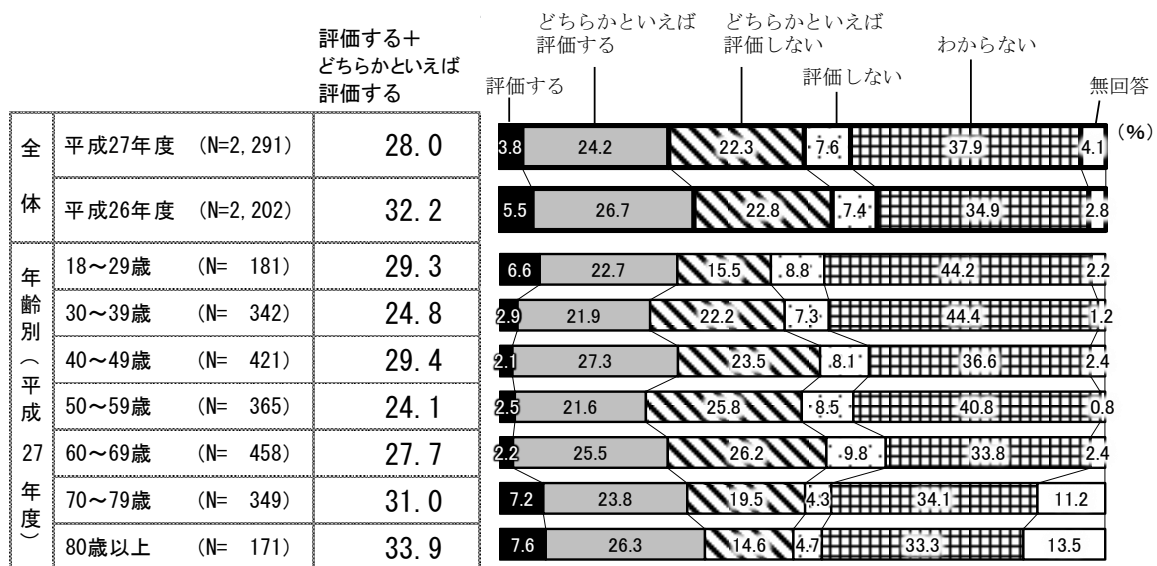
問 8 4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が38.4%となっている。一方、“評価しない+どちらかといえば評価しない”、“わからない+無回答”の割合についても、それぞれ30.8%、30.9%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より高くなっている。

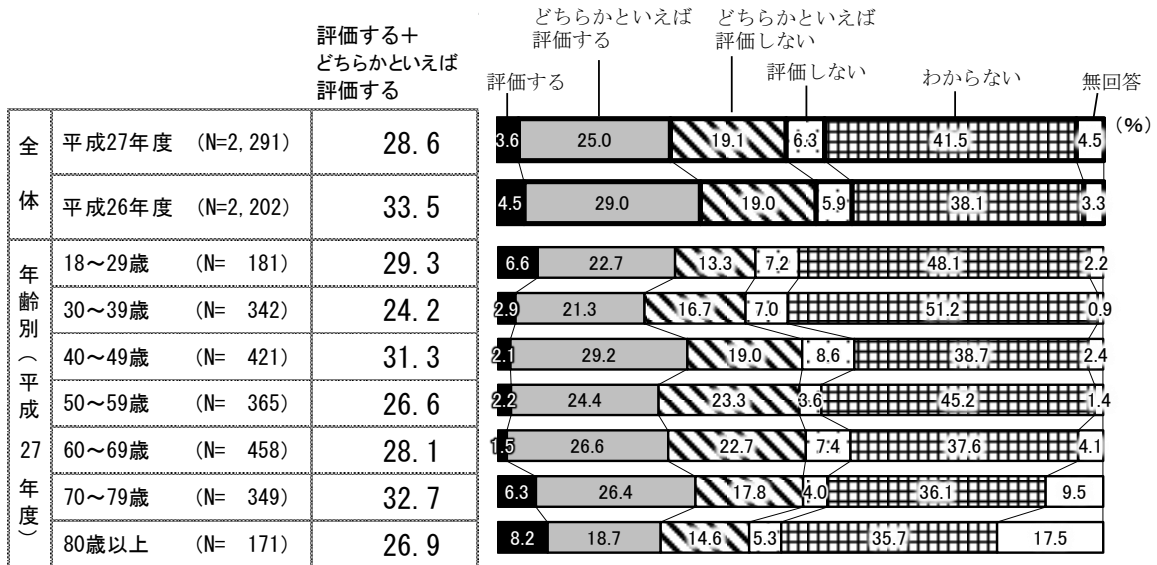
問 9 1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.0%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(29.9%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合が42.0%と非常に高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、70歳以上で3割を超えており、他の年齢層より高くなっている。

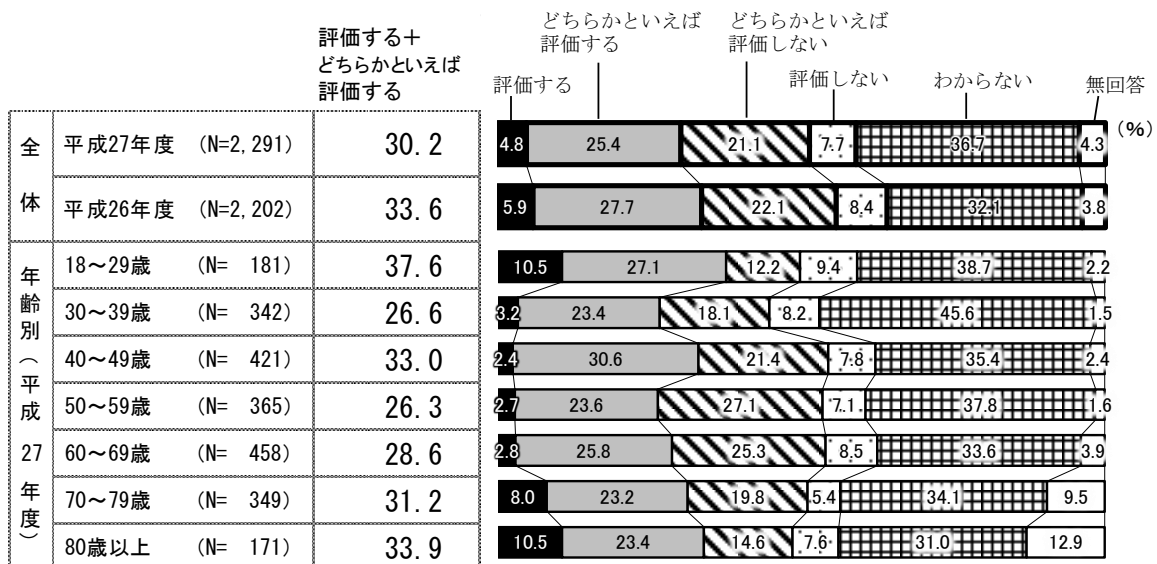
問9 2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.6%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(25.4%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が46.0%と非常に高くなっている。

年齢層別では、40歳代及び70歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”が3割を超えており、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、概ね若年層及び高齢層で高くなっている。

問9 3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”割合が30.2%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(28.8%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合が41.0%と非常に高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より高くなっている。

分野別比較一覧 問1 “進んでいる+どちらかといえば進んでいる”
問2~9 “評価できる+どちらかといえば評価できる”

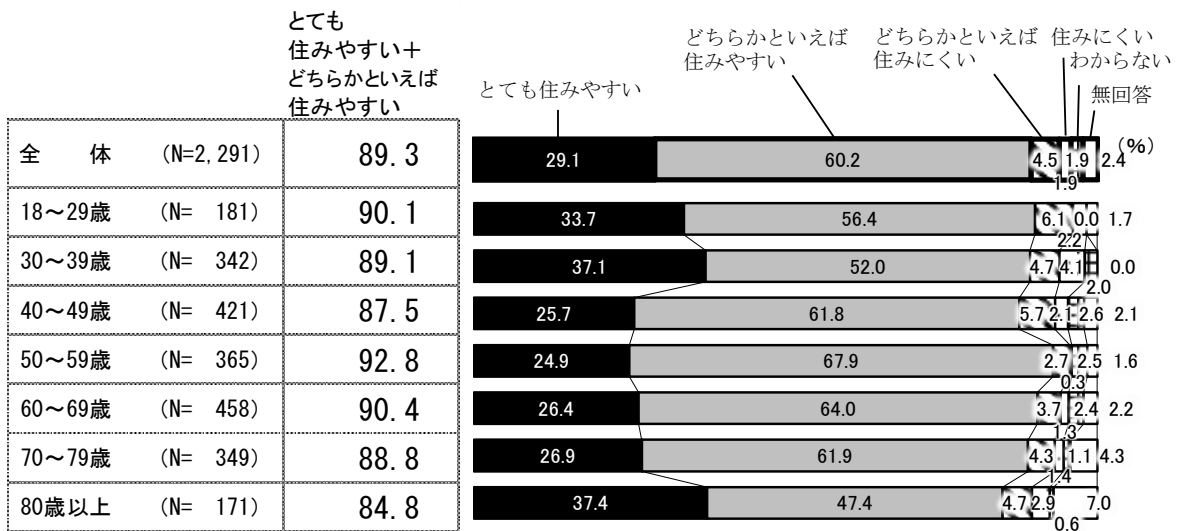
(%)

項目		H27	H26	H25
問1 仙台市の東日本大震災からの復旧復興施策	1. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策	33.2	27.0	17.3
	2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保	40.2	30.6	19.2
	3. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	23.3	18.5	14.1
	4. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援	26.0	24.1	26.1
	5. 東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援	23.3	22.6	19.7
	6. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生	16.1	13.6	9.6
	7. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	45.7	41.7	39.8
	8. 「エコモデルタウン」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進	20.3	17.9	15.1
	9. 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	14.9	15.1	16.1
	10. 震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信	41.4	40.0	—
問2 暮らしで安全に安心して暮らせるまちづくり	1. 医療サービスや救急医療体制の充実	53.8	51.0	55.0
	2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進	56.3	55.3	57.5
	3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保	34.4	35.7	38.1
	4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実	30.7	33.7	34.4
	5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全	35.9	37.7	35.5
	6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化	31.7	31.9	32.7
	7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上	49.1	50.1	48.5
問3 子育て支援や教育環境づくり	1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり	27.9	27.2	30.6
	2. 児童館の整備やさまざまな体験活動の機会の確保など、子どもたちが明るく元気に育つ環境づくり	40.6	42.4	44.4
	3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり	33.6	34.9	36.0
	4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実	27.1	28.3	27.7
	5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり	32.7	34.6	33.4
	6. 大学などの人材や知的資源が集積した「学都」を生かしたまちづくり	27.7	30.4	29.3
問4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり	1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり	34.5	33.4	37.0
	2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり	34.4	34.0	36.1
	3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり	25.7	24.9	28.9
	4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり	25.4	25.5	27.4
	5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり	25.7	24.5	29.4
	6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり	23.1	23.6	26.2
	7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進	20.8	22.1	23.7
	8. 外国人が暮らしやすい環境づくり	20.9	19.4	21.1
問5 スポーツに親しめる環境づくり	1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、音楽・アート等に市民が取り組める環境づくり	62.4	65.3	67.7
	2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり	66.1	68.6	67.9
	3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり	48.5	51.4	52.6
	4. スポーツに市民が取り組める環境づくり	46.8	52.4	50.9
	5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり	66.1	70.0	69.0
問6 東北を牽引する産業振興と観光交流促進	1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出	31.1	34.7	38.2
	2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活力づくり	33.8	36.3	35.5
	3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化	23.7	24.2	25.8
	4. 仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり	77.1	84.2	82.8
	5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大	52.7	58.4	58.9
	6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進	30.6	29.9	30.8
問7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり	1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進	62.3	65.6	64.9
	2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全	51.0	50.9	52.0
	3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり	65.7	67.8	65.8
	4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり	43.9	45.9	45.1
	5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり	29.1	30.3	29.7
問8 交通体系づくり	1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進	32.9	33.4	36.1
	2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり	51.5	57.4	56.2
	3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり	49.5	48.6	50.0
	4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備	38.4	38.3	40.5
問9 市民参加の促進	1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進	28.0	32.2	32.3
	2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり	28.6	33.5	33.8
	3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり	30.2	33.6	34.7

3. 仙台市における住みやすさなど

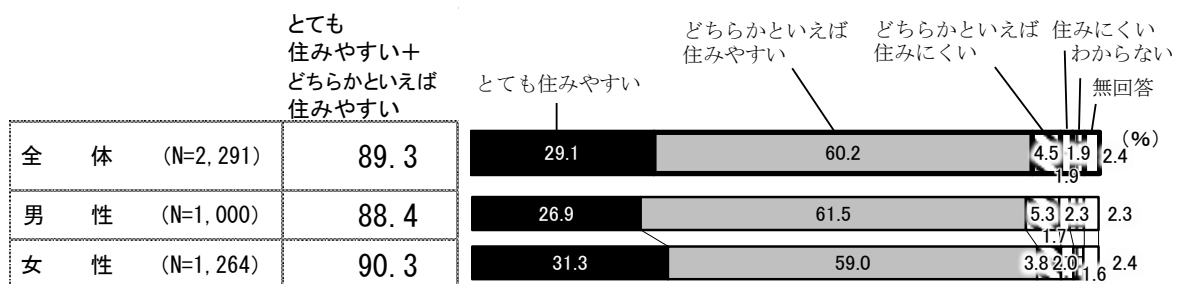
(1) 仙台市の住みやすさ

問10 仙台市は住みやすいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

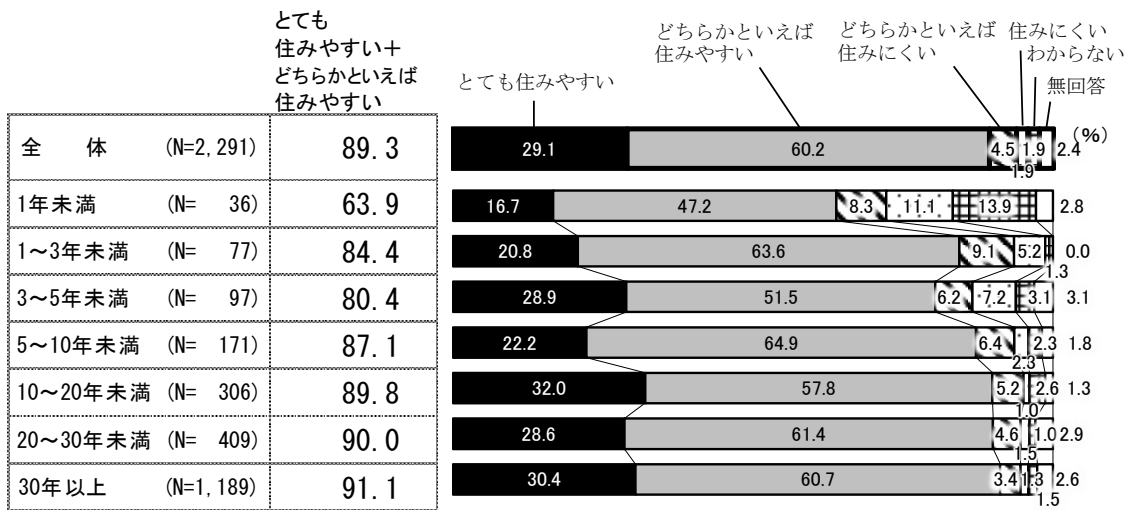


全体では、“とても住みやすい+どちらかといえば住みやすい”の割合が89.3%とかなり高くなっている。

年齢層別では、18~29歳、50歳代、60歳代で“とても住みやすい+どちらかといえば住みやすい”の割合が9割を超えて、とても高くなっている。その中でも50歳代は92.8%となっており、特に高くなっている。また、40歳未満と80歳以上では、“とても住みやすい”の割合が他の年齢層よりも高くなっている

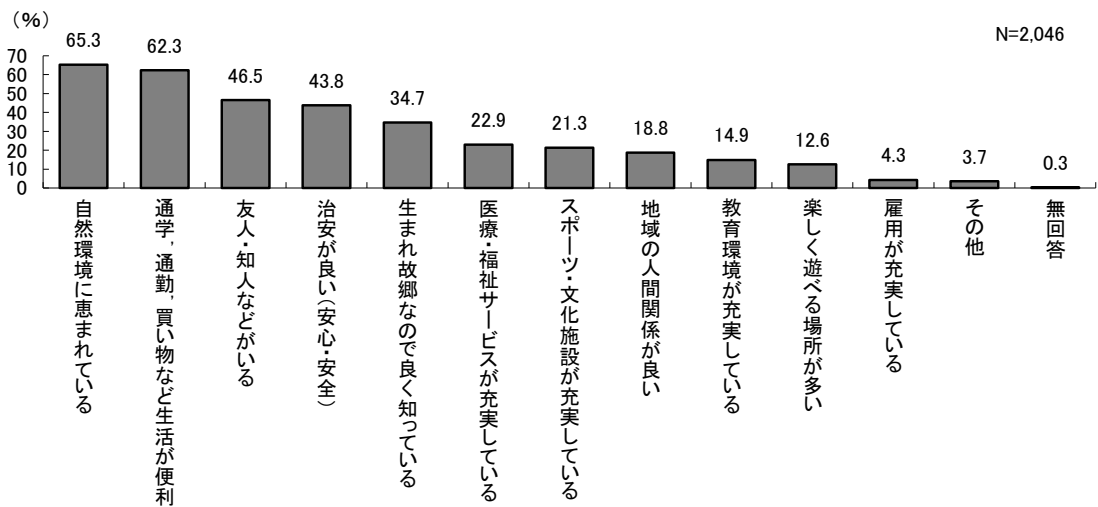


次に性別で見ると、“とても住みやすい+どちらかといえば住みやすい”の割合が女性において9割を超えて、かなり高くなっている。“とても住みやすい”の割合も女性が男性を上回っている。一方で、“どちらかといえば住みやすい”の割合は、男性が女性を上回っている。



最後に居住年数別で見ると、概ね居住年数が長くなるほど“とても住みやすい+どちらかといえば住みやすい”の割合が高くなり、20年以上においては9割以上となり、かなり高くなっている。また、居住年数が1年未満において、“わからない+無回答”の割合が高くなっている。

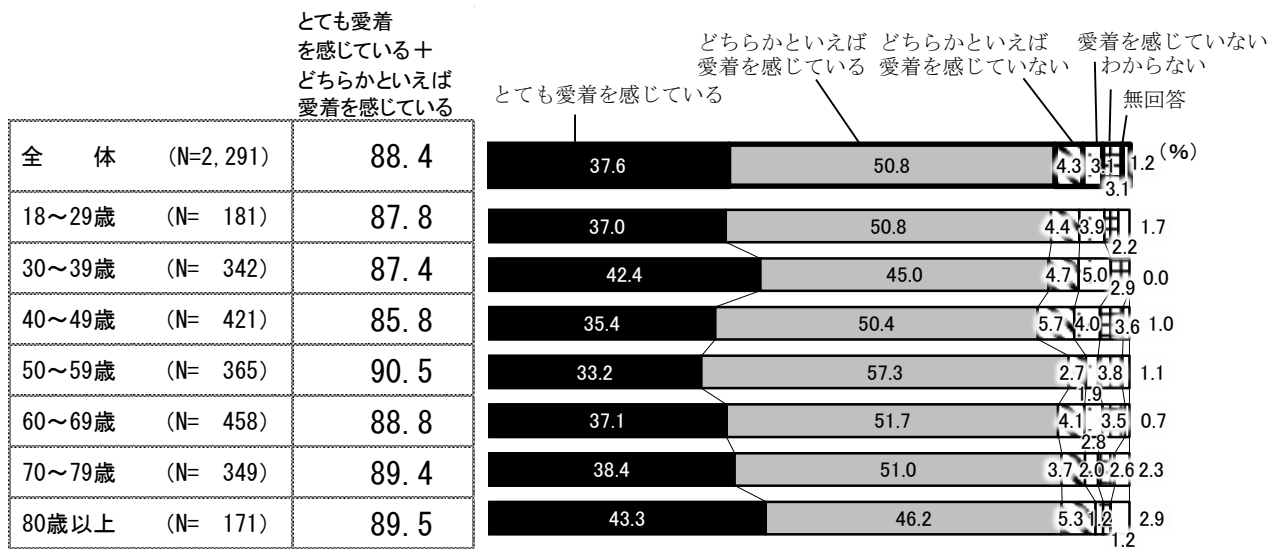
1または2と回答した方にお聞きします。上記で、1または2を選択した理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○をつけてください。



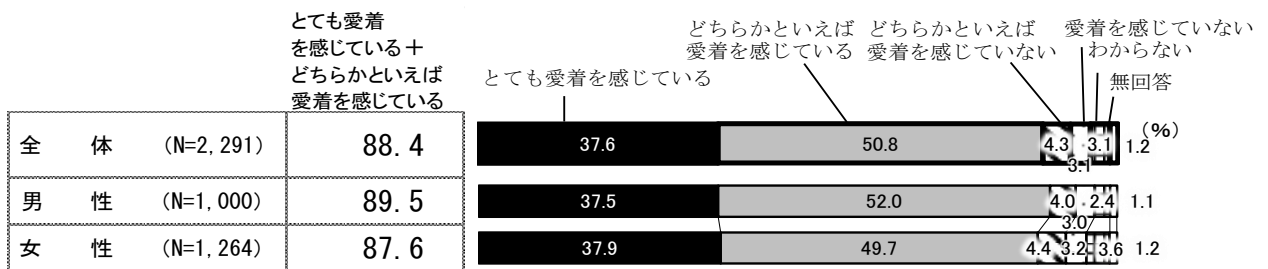
仙台市の住みやすさについて、“とても住みやすい”または“どちらかといえば住みやすい”と答えた方々にその理由をたずねたところ、“自然環境に恵まれている”が65.3%と最も多く、次に“通学、通勤、買い物などの生活が便利”が62.3%で続いており、これら上位2つが6割以上の人に挙げられている。以下、“友人・知人などがいる”(46.5%)、“治安が良い(安心・安全)”(43.8%)が続いている。

(2) 仙台市への愛着

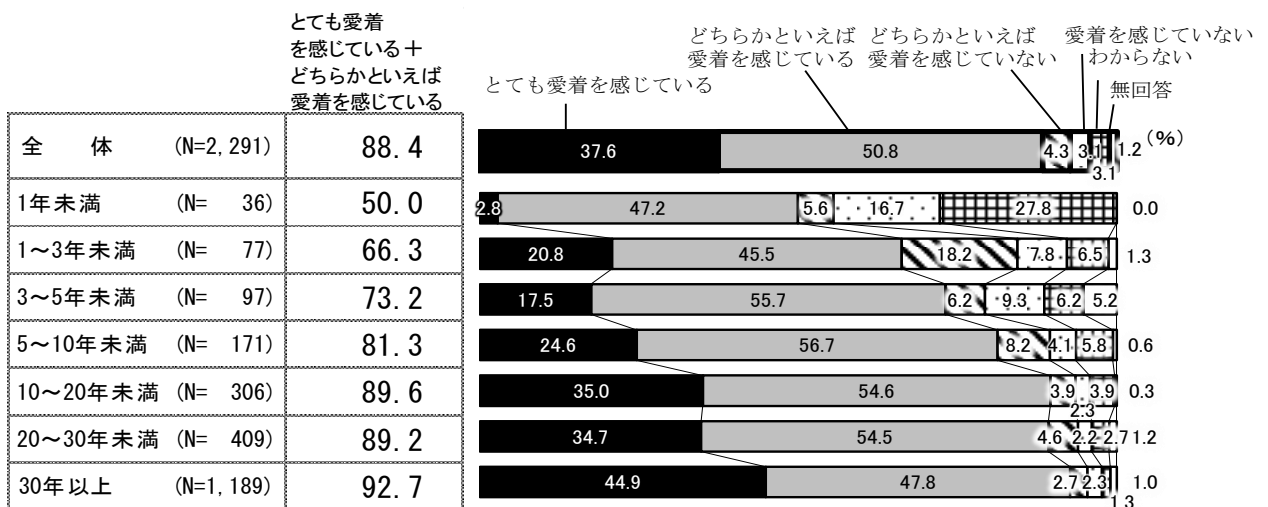
問 1 1 仙台市に愛着を感じていますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください



全体では、“とても愛着を感じている+どちらかといえば愛着を感じている”の割合が88.4%とかなり高くなっている。年齢層別では、大きな差は見られないが、50歳代で“とても住みやすい+どちらかといえば住みやすい”の割合が9割を超えており、他の年齢層より高くなっている。



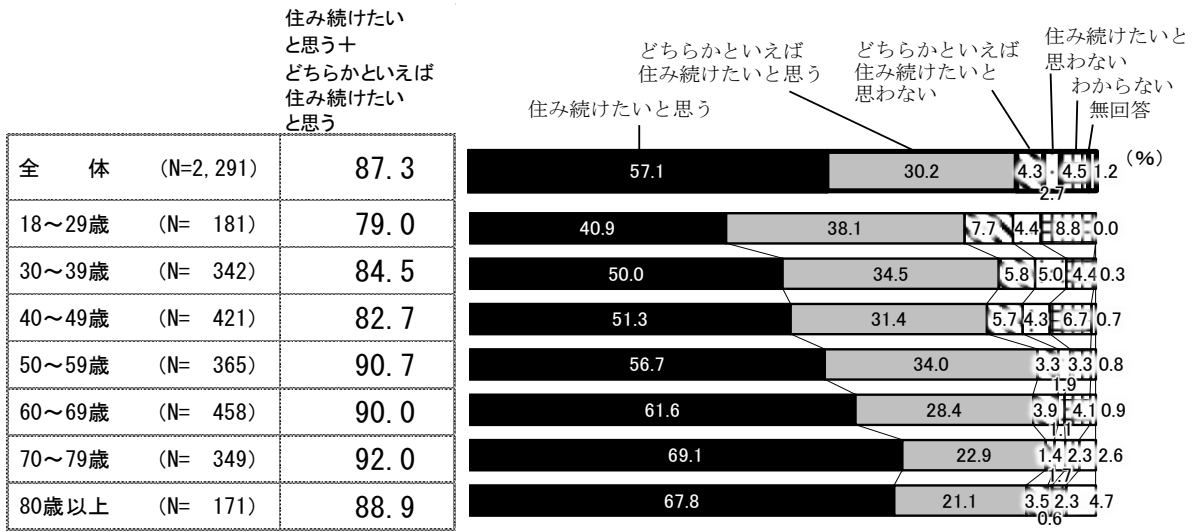
次に性別で見ると、男女ともに高い割合となっており、特に男性が9割近い割合となっている。



最後に居住年数で見ると、概ね居住年数が長くなるほど、“とても愛着を感じている+どちらかといえば愛着を感じている”の割合が高くなっており、特に10年以上は9割前後まで高くなっている。また、居住年数が1年未満において、“愛着を感じていない”と“わからない”の割合がかなり高くなっている。

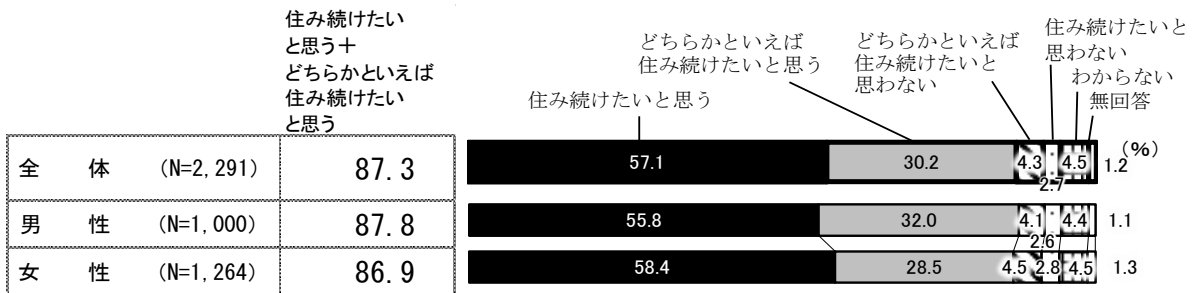
(3) 今後の仙台市への居住意向

問 1 2 これからも仙台市に住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

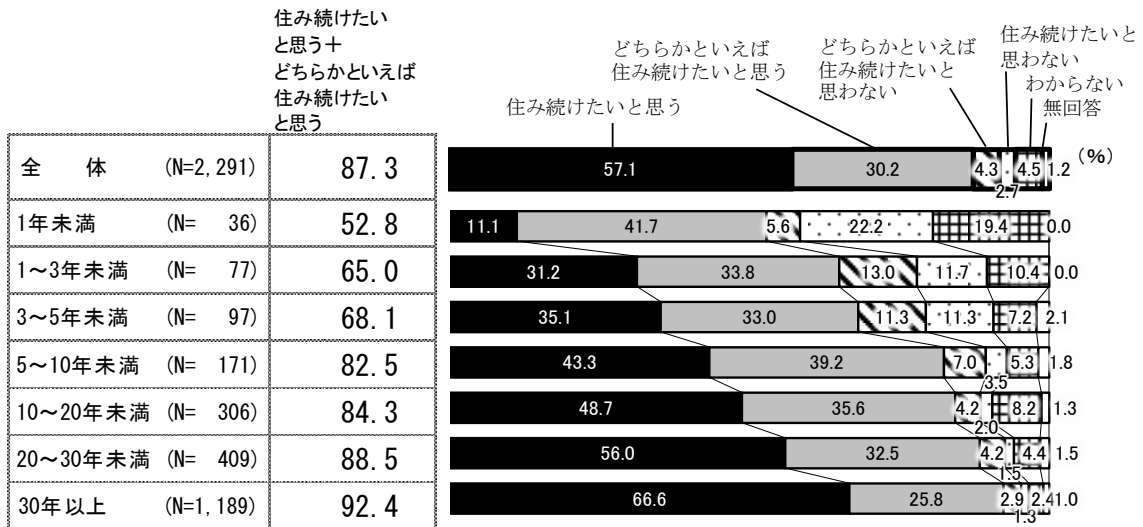


全体では、“住み続けたいと思う+どちらかといえば住み続けたいと思う”の割合が87.3%とかなり高くなっている。

年齢層別では、概ね年齢層が上がるほど“住み続けたいと思う+どちらかといえば住み続けたいと思う”の割合が高くなる傾向が見られ、50歳以上で9割前後となっている。

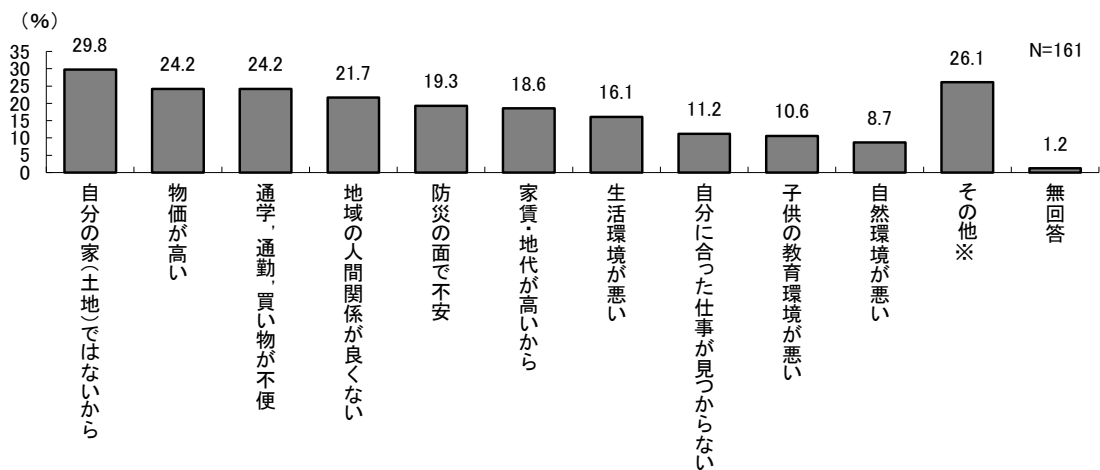


次に性別で見ると、“住み続けたいと思う+どちらかといえば住み続けたいと思う”の割合は男女であまり差は見られないが、“住み続けたいと思う”の割合は女性が男性を2.6ポイント上回っている。一方で、“どちらかといえば住み続けたいと思う”の割合については、男性が女性を3.5ポイント上回っている。



最後に居住年数で見ると、概ね居住年数が長くなるほど、“住み続けたいと思う+どちらかといえば住み続けたいと思う”の割合が高く、特に30年以上は9割を超えて、かなり高くなっている。一方で、居住年数が1年未満においては、“住み続けたいと思わない”と“わからない”の割合が他の年齢層に比べ、かなり高くなっている。

3または4と回答した方にお聞きします。上記で、3または4を選択した理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○をつけてください。



※ “その他”の主な回答は、「税金が高い：8件」、「住み続けたい理由がない・他都市に住んでみたい：8件」、「震災復興関連の不満：5件」、「モラルがない・マナーが悪い：4件」など

仙台市への居留意向について、“どちらかといえば住み続けたいと思わない”または“住み続けたいと思わない”と答えた方々にその理由をたずねたところ、“自分の家(土地)ではないから”が29.8%と最も多く、次に“物価が高い”(24.2%)、“通学、通勤、買い物が不便”(24.2%)、“地域の人間関係が良くない”(21.7%)が続いている。

4. 自由意見

復興に向けた取り組みなどを含め、市政全般に関する自由意見を取りまとめたところ、以下のようになった。

意見の件数は複数回答の取り扱いとしている。

◆大分類

分類項目	件数
1 市政に対する意見	953 件
2 アンケートに対する意見	57 件
3 その他	39 件
総意見数（回答者数 688 名）	1,049 件

◆中分類（※大分類 1「市政に対する意見」を細分化）

分類項目	件数
1 東日本大震災からの復旧・復興	95 件
2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり	60 件
3 子育て支援や教育環境づくり	118 件
4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり	91 件
5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり	55 件
6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進	40 件
7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり	32 件
8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり	272 件
9 市政や公益活動への市民参加の促進	48 件
10 その他（市政関連）	142 件
総意見数	953 件

◆小分類（※中分類をさらに細分化）

分類項目	件数	
1 東日本大震災からの復旧・復興	1 被災された方々への生活再建支援	12 件
	2 太陽光発電など次世代エネルギーの推進	4 件
	3 防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	4 件
	4 農地の復旧や、大規模化などによる農業再生	4 件
	5 原発・放射能対策	4 件
	6 集団移転や復興公営住宅の建設など住まいの確保	3 件
	7 津波防災対策	2 件
	8 ライフラインや公共施設の復旧	1 件
	9 公園の再整備や自然環境再生などによる海辺の再生	1 件
	10 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	1 件
	11 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	1 件
	12 震災がれきの処理	0 件
	13 その他（震災関連）	58 件
2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり	1 医療サービス・救急医療体制	36 件
	2 防犯対策	11 件
	3 交通マナー	6 件
	4 健康づくり	5 件
	5 地震・集中豪雨など災害対策	2 件

分類項目		件数
づ教て3 く育支 り環援 境や育	1 子育て環境	66 件
	2 学校教育・教育環境	32 件
	3 保育所の整備や相談事業等	20 件
りしき4 や、自誰 す立も い立が 環し共 境して づ暮に くら生	1 高齢者福祉	65 件
	2 障害者福祉	14 件
	3 国際化関連	6 件
	4 生活保護	5 件
	5 バリアフリーのまちづくり	1 件
りるッ5 環にや 境親ス づくしポ くめー芸	1 スポーツのための施設・サービス	25 件
	2 芸術や文化の振興	13 件
	3 その他（文化スポーツ関連）	17 件
光る6 交産 流業 促東 進の 振北 進を 興牽 と引 観す	1 観光資源やイベントを生かしたまちづくり	15 件
	2 雇用対策	11 件
	3 商店街の活性化や地域産業の振興	2 件
	4 地産地消の推進など農業政策	1 件
	5 その他（産業観光関連）	11 件
ちの和7 づ都し くをな り育が むら自然 ま杜と 調	1 緑の保全・創出	15 件
	2 ごみ減量・リサイクル	12 件
	3 公害防止や温暖化防止などなど環境保全	1 件
	4 その他（環境関連）	4 件
8 公 コ 共 パ 交 ク 通 ト 中 な 心 ま の ち 交 づ 通 くり 体 と 系 つ づ くり	1 公共交通	95 件
	2 道路の管理	32 件
	3 地下鉄東西線	29 件
	4 自転車対策	23 件
	5 渋滞緩和	20 件
	6 良好な住環境の整備	17 件
	7 街並みや景観	9 件
	8 基幹となる道路ネットワークの整備	9 件
	9 都市再開発や市街地の活性化	6 件
	10 その他（まちづくり・交通関連）	32 件
促民動や9 進参へ公 加の益市 の市活政	1 広報政策	37 件
	2 市民参加によるまちづくり	4 件
	3 その他（市民参画関連）	7 件
10 そ の 他 （ 市 政 関 連 ）	1 税関連	36 件
	2 行政運営全般	31 件
	3 窓口サービスや職員	29 件
	4 市民生活全般	21 件
	5 市長	16 件
	6 パンダ誘致関連	2 件
	7 その他（公共施設について等）	7 件
総意見数		953 件

市政に対する意見について、＜中分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、『8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり (272 件)』が最も多く、次に『その他 (市政関連) (142 件)』、『3 子育て支援や教育環境づくり (118 件)』が続いている。

『1 東日本大震災からの復旧・復興』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、「1 被災された方々への生活再建支援 (12 件)」では、復興支援の悪用防止や本当に困っている人へのより手厚い支援を望む意見が寄せられている。

『2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 医療サービス・救急医療体制 (36 件)」では、子供に対する医療助成の見直しや休日・夜間の救急医療体制の整備を望む意見が寄せられている。

『3 子育て支援や教育環境づくり』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった「1 子育て環境 (66 件)」では、安心して子供を産み、育てることができる環境づくりを求める意見が寄せられている。また、「2 学校教育・教育環境 (32 件)」では、特別支援学校の充実や、学童保育サービスの充実等を望む意見が寄せられている。

『4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 高齢者福祉 (65 件)」では、高齢化の進行に伴う諸問題に対応するため、特別養護老人ホームなどの施設整備やいきがづくり・健康づくり環境の充実等を望む意見が寄せられている。

『5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 スポーツのための施設・サービス (25 件)」では、楽天 Kobo スタジアム宮城のドーム化、子どもの体力向上やお年寄りの健康維持のためのスポーツ施設を望む意見が寄せられている。

『6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 観光資源やイベントを生かしたまちづくり (15 件)」では、世界中へ仙台の食ブランドや文化、歴史、自然をもっと PR すべきとの意見や、市民が参加しやすいイベントの増加を望む意見が寄せられている。

『7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 緑の保全・創出 (15 件)」では、街路樹の適切な維持管理や既存緑地の保全を望む意見が寄せられている。

『8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 公共交通 (95 件)」では、地下鉄東西線開通に伴うバスのダイヤや路線の再編や運賃の見直し、その他利便性の向上を望む意見が寄せられている。

『9 市政や公益活動への市民参加の促進』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 広報政策（37 件）」では、仙台市で行っている施策や取り組みについての情報発信を望む意見が寄せられている。

最後に、『10 その他（市政関連）』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、「1 税関連（36 件）」では、税金の使い道の精査を求める意見や税額についての意見が寄せられている。また、「2 行政運営全般（31 件）」では、市民の声や弱者の声を市政に反映してほしいなどの意見が寄せられている。さらに、「3 窓口サービスや職員（29 件）」では、市職員の窓口業務をはじめとする公務に取り組む姿勢に対して、より市民に寄り添う対応を求める意見が寄せられている。

Ⅲ. 資 料

平成 27 年度「施策目標に関する市民意識調査」調査票

はじめに、あなたご自身や世帯の状況についておたずねします。

F1 あなたの性別をお答えください。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-----|-----|
| 1 男 | 2 女 |
|-----|-----|

F2 あなたの年齢をお答えください。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 18～19 歳 | 2 20～29 歳 | 3 30～39 歳 | 4 40～49 歳 |
| 5 50～59 歳 | 6 60～69 歳 | 7 70～79 歳 | 8 80 歳以上 |

F3 あなたの現在のお住まいは、次のどれですか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1 持ち家（一戸建て） | 2 持ち家（集合住宅） | 3 賃貸住宅（一戸建て） |
| 4 賃貸住宅（集合住宅） | 5 社宅・官舎・寮 | 6 応急仮設住宅 |
| 7 その他（ ） | | |

F4 あなたご自身のお仕事は大きく分けて、次のどれにあたりますか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 経営者、役員 | 2 会社員、公務員など常勤の職員 |
| 3 臨時雇用、パート、アルバイト、内職 | 4 自営業者またはその家族従業者 |
| 5 専業主婦・主夫 | 6 学生 |
| 7 無職 | 8 その他（ ） |

F5 現在同居されている世帯の構成はどのようになっていますか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 一人暮らし | 2 夫婦のみ |
| 3 二世帯世帯（あなたの世代と親） | 4 二世帯世帯（あなたの世代と子ども） |
| 5 三世帯世帯（あなたを含めて三世代） | 6 その他（ ） |

F6 あなたのお住まいの場所（区）をお答えください。

あてはまる番号に○をつけてください。

- | | | | | |
|-------|--------|-------|-------|------|
| 1 青葉区 | 2 宮城野区 | 3 若林区 | 4 太白区 | 5 泉区 |
|-------|--------|-------|-------|------|

F7 あなたが仙台市（合併前の旧市町村を含む。）にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

※一度市外に転出して、また転入した方は、通算の年数をお答えください。

- | | | | |
|-------------|-------------|-----------|------------|
| 1 1 年未満 | 2 1～3 年未満 | 3 3～5 年未満 | 4 5～10 年未満 |
| 5 10～20 年未満 | 6 20～30 年未満 | 7 30 年以上 | |

F8 東日本大震災による被災の状況について、行政機関による「り災証明」の有無及びその内容等により、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------|---------|
| 1 全壊 | 2 大規模半壊 |
| 3 半壊 | 4 一部損壊 |
| 5 り災証明を受けていない | |

仙台市の東日本大震災からの復旧・復興施策に関しておたずねします。

問1 あなたは、仙台市が進めている震災からの復旧・復興に向けた取り組みについて、どのくらい進んでいると思いますか。次の1～10の施策それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

また、このうち、今後、特に力をいれていこうべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

今後、特に力をいれていこうべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

東日本大震災からの復旧・復興施策	進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	わからない	力をいれるべき施策
1. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策	1	2	3	4	5	
2. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保	1	2	3	4	5	
3. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	1	2	3	4	5	
4. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援	1	2	3	4	5	
5. 東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援	1	2	3	4	5	
6. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生	1	2	3	4	5	
7. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	1	2	3	4	5	
8. 「エコモデルタウン（※）」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進	1	2	3	4	5	
9. 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	1	2	3	4	5	
10. 震災の記録と記憶を後世へ継承するための活動や内外への情報発信	1	2	3	4	5	

※「エコモデルタウン」：田子西や荒井東土地区画整理事業で進められている取り組みで、再生可能エネルギーを積極的に導入しながら非常時のエネルギーを確保し、通常時においても高いエネルギー効率と経済性の両立を図るまちづくり。

震災復興関連以外の仙台市の施策に関しておたずねします。

健康で安全に安心して暮らせるまちづくり

問2 仙台市の「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 医療サービスや救急医療体制の充実	1	2	3	4	5	
2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進	1	2	3	4	5	
3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保	1	2	3	4	5	
4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実	1	2	3	4	5	
5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全	1	2	3	4	5	
6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化	1	2	3	4	5	
7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上	1	2	3	4	5	

子育て支援や教育環境づくり

問3 仙台市の「子育て支援や教育環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり	1	2	3	4	5	
2. 児童館の整備やさまざまな体験活動の機会の確保など、子どもたちが明るく元気に育つ環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 「のびすく（※）」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり	1	2	3	4	5	
4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実	1	2	3	4	5	

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり	1	2	3	4	5	
6. 大学などの人材や知的資源が集積した「学都」を生かしたまちづくり	1	2	3	4	5	

※「のびすく」：乳幼児の親子が自由に交流できるスペースの提供や、理由を問わない託児などを行っている子育て支援施設。

誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり

問 4 仙台市の「誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。また、このうち、今後、特に力をいれていってほしいと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり	1	2	3	4	5	
2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり	1	2	3	4	5	
3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり	1	2	3	4	5	
4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり	1	2	3	4	5	
5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり	1	2	3	4	5	
6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり	1	2	3	4	5	
7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	
8. 外国人が暮らしやすい環境づくり	1	2	3	4	5	

文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり

問5 仙台市の「文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、音楽・アート等に市民が取り組める環境づくり	1	2	3	4	5	
2. 「せんくら（※）」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり	1	2	3	4	5	
4. スポーツに市民が取り組める環境づくり	1	2	3	4	5	
5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり	1	2	3	4	5	

※「せんくら」：仙台クラシックフェスティバルの愛称。毎年秋の3日間にわたり、誰もが楽しめる低料金・短時間のコンサートを多数開催する、クラシック音楽の祭典です。

東北を牽引する産業の振興と観光交流促進

問6 仙台市の「東北を牽引する産業の振興と観光交流促進」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出	1	2	3	4	5	
2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活カづくり	1	2	3	4	5	
3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化	1	2	3	4	5	
4. 仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり	1	2	3	4	5	
5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大	1	2	3	4	5	
6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進	1	2	3	4	5	

自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり

問7 仙台市の「自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 市街地の緑化や公園の整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進	1	2	3	4	5	
2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全	1	2	3	4	5	
3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり	1	2	3	4	5	
4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり	1	2	3	4	5	
5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり	1	2	3	4	5	

コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり

問8 仙台市の「コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進	1	2	3	4	5	
2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり	1	2	3	4	5	
3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり	1	2	3	4	5	
4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備	1	2	3	4	5	

市政や公益活動への市民参加の促進

問 9 仙台市の「市政や公益活動への市民参加の促進」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらか といえば 評価する	どちらか といえば 評価しない	評価 しない	わから ない	力をい れるべ き施策
1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進	1	2	3	4	5	
2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり	1	2	3	4	5	

仙台市における住みやすさなどについておたずねします。

問 10 仙台市は住みやすいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 とても住みやすい	2 どちらかといえば住みやすい
3 どちらかといえば住みにくい	4 住みにくい
5 わからない	

→ 1または2と回答した方にお聞きします。上記で、1または2を選択した理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○をつけてください。

1 友人・知人などがいる	2 自然環境に恵まれている
3 通学、通勤、買い物など生活が便利	4 楽しく遊べる場所が多い
5 地域の人間関係が良い	6 治安が良い（安心・安全）
7 医療・福祉サービスが充実している	8 教育環境が充実している
9 雇用が充実している	10 スポーツ・文化施設が充実している
11 生まれ故郷なので良く知っている	
12 その他 (具体的に：_____)	

問 11 仙台市に愛着を感じていますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 とても愛着を感じている	2 どちらかといえば愛着を感じている
3 どちらかといえば愛着を感じていない	4 愛着を感じていない
5 わからない	

12 これからも仙台市に住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 住み続けたいと思う | 2 どちらかといえば住み続けたいと思う |
| 3 どちらかといえば住み続けたいと思わない | |
| 4 住み続けたいと思わない | 5 わからない |

→ 3または4と回答した方にお聞きします。上記で、3または4を選択した理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 自分の家（土地）ではないから | 2 家賃・地代が高いから |
| 3 物価が高い | 4 生活環境が悪い |
| 5 自然環境が悪い | 6 防災の面で不安 |
| 7 通学，通勤，買い物が不便 | 8 子供の教育環境が悪い |
| 9 自分に合った仕事が見つからない | 10 地域の間人間関係が良くない |
| 11 その他 | |
| (具体的に： _____) | |

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。
 なお、市政各般に関するご意見などがございましたら、下欄にご記入ください(紙幅が不足する場合、お手持ちの用紙などにご記入願います。)

[ご意見など]

施策目標に関する市民意識調査
(平成27年度市民アンケート取りまとめ)
報告書

平成27年8月発行

調査主体：仙台市 まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7番1号
TEL 022-214-1268

調査受託：株式会社東日本リサーチセンター